

令和6年7月26日



研究だより

第63号

自治医科大学附属さいたま医療センター

若手医師の皆さんへ

内分泌代謝科 学内准教授 吉田 昌史



今回は研修医を中心とした「若手」に向けて記載させていただきます。ご無礼な点等ございましたらご容赦頂きますと幸いです。

早いもので、私が自治医科大学附属さいたま医療センターにジュニアレジデントとして入職し、今年度で20年目となりました。当センターのジュニアレジデント出身の内科医の中では一番の古株になってしまいました。20年間の経験から、研修医や南館医局の若手の多くが、この「研究だより」を手にとらない事を私は知っています（私は読んでいましたので、これまで寄稿して下さっていた先生方はお怒りにならないで下さい）。ですので、今手に取って下さっている若手の先生（ありがとうございます）が読み飽きてしまう前に、伝統ある「自治医科大学附属さいたま医療センター・内分泌代謝科」のアピールだけさせていただきます。

「インスリンが発見されたのは → トロント大学」ですが、「血糖依存性インスリン分泌促進機序（TRPM2経路）を解明した」のは、自治医科大学附属さいたま医療センターの加計正文前教授、山田穂高講師、伊藤聖学講師、吉田昌史を中心とした研究グループです。

皆さんが医師である以上、1度は処方した事があるであろう2型糖尿病治療薬の「DPP-4阻害薬」や「GLP-1受容体作動薬」、新薬「イメグリミン」のインスリン分泌促進機序を解明したのは、加計正文前教授、山田穂高講師、伊藤聖学講師、船崎俊介助教、そして吉田昌史を中心とした研究グループです。その事実はあまり知られていないので、この機会に精いっぱいアピールさせていただきました。将来先生方がこれらの薬を処方される際、時々で構いませんので「そういえばこの薬

の作用機序、自分が研修した病院で発見されたんだっけ？」と思い出して頂けたら、凄く嬉しいです。もし興味がありましたら、いつでも熱く語りますので、ご連絡頂きますと幸いです。

この先は、研修医の皆さんが今後の進路を決める際に役に立てばと思います、私が糖尿病専門医になり、インスリン分泌の研究者となった経緯を記載させていただきます。可能であれば、このまま続きを読んで頂けますと幸いです。

私は内科志望の研修医として当センターに入職しました。しかしながら、最初に入会した学会は「日本外科学会」です。人生で初めて経験した学会発表も、外科学会の地方会でした。私が両利きであり、多少手先が器用であったため、手技が楽しくて仕方なかったからです。「臍臓は宇宙だ」とも感じましたし、遠山信幸教授、野田弘志教授のご指導や、お誘い頂いた飲み会が非常に楽しかったのも大きかったです。当時を知る同期からは「吉田は昔、1センチ四方の紙を両手に持ち、両手同時に片手で鶴を折るのを得意げにやっていた」と笑われます。しかしながら、器用ではあるものの握力・体力が無く、早起きが非常に苦手であったため、ゴッドハンドになる夢は断念しました。

その後様々な科をローテさせて頂きましたが、内分泌代謝科に入局するつもりは全くありませんでした。あまりにも淡々と過ごしていたため、研修医時代に内分泌代謝科をローテしていた際の記憶もあまりありません。ただ、糖尿病管理は医師である限り必須となると理解していたので、薬の使い方やインスリンの調節方法などは頑張って勉強していました。

転機が訪れたのは、ジュニア2年目にCCUをロー

テーションさせて頂いた時でした。数多くの急性心筋梗塞患者を担当させて頂く中で、ふと「急性心筋梗塞患者は、糖尿病ではない人でも血糖値が高い」事に疑問を持ったのです。HbA1cが5 %台の人でも、搬送時の随時血糖が200mg/dlを超えている人が多くおられ、血糖値が高値の人ほど予後が悪い印象でした。ストレス時に上昇するホルモンは全て血糖値を上昇させるので、もしかすると「血糖値は最も鋭敏なストレスマーカーになる」のではないかと突如閃き、川上正舒教授、加計正文教授をお願いしてストレスマーカーとしての血糖値の有用性についての勉強を始めました。虚血と血糖値の関係は今では常識ですが、当時はそのような発表は殆ど無く、その後特許も取らせて頂きました。多くの外部の勉強会にも参加させて頂き、センター内では得られない知識や、糖尿病学の未来について学ぶ事ができ、「トキメキ」を感じ、内分泌代謝科に入局しました。そのような機会を頂いた川上正舒教授には今でも感謝しております。色々な我儘を聞いて下さった石川三衛教授にも御礼申し上げます。そんな中、当時発売されたばかりのGLP-1受容体作動薬が、心筋梗塞モデル動物の梗塞範囲を小さくするという報告があり、「GLP-1の研究がしたい」と思って大学院に入学し、今に至っています。大学院時代は実験に明け暮れ、4年間、ほぼ毎晩救急部の先生方と出前を取って、救急部の医師室で食べていました。強制されたのではなく、「やりたい事が多すぎて時間が無い」という感覚でした。そんな私に加計教授はお付き合い下さり、新たな発見をした際など深夜2時にも関わらず電話対応して下さいました。今思うと迷惑だったろうなと反省しております。本当にありがとうございました。

今の私の目標は、①宇宙に行くこと、②ドラえものの道具を作ること、③2型糖尿病新規発症者を無くすることの3つです。①に関しては、2021年度JAXA宇宙飛行士候補者募集に応募し、書類選抜は通過しましたが、その後の試験で落ちてしまいました。②、③については、目標達成を目指して今後も頑張っていくた

いと思います。一緒にやりたいと思って頂ける方は、是非ご連絡下さい。

そんな私が、研修医の皆さんが「進路を決める際」に注意した方が良いと思う点は、1) 自分で自分の可能性を狭めない、2) 広い視野を持つ の2点でしょうか。

1) 自分で自分の可能性を狭めない

学生時代感じた各科の印象と、実際にローテして感じる各科の印象は違う事が多いです。「自分はXX科に入局する、内分泌代謝科には向いていない」と決めつけてしまっている先生。実は内分泌代謝科に向いているかもしれません。初志貫徹が向いている人ももちろんおられますし、素晴らしい事ですが、私のようなケースがある事も知っておいて頂けると幸いです。科を跨いだ仮説を立てる事ができるのは研修医の特権です。毛嫌いする科を作らず、様々な科で学んだ知識を用いて研修医時代を楽しく過ごして頂きたいと思います。

2) 広い視野を持つ

当センターでローテした印象だけで進む科を決めるのは勿体ないと思います。私が経験したように、学会や講演会などで外部の人の話やその学問の近未来を勉強する事で、これまで感じなかった「トキメキ」を感じられる可能性もあります。また、少し入局を考えている科があれば、その分野の学会や講演会にコッソリ参加してみるのも良いように思います。参加した結果「トキメキ」を感じなければ、その科は実は向いていない可能性があります。自分の専門を決めると、多くの人はその科の勉強を一生続ける事になります。「自分は研究しない」と決めていても、自分が専門として選んだ科の「最新の研究成果」は、医師である限り勉強し続けなければなりません。「トキメキ」を感じなかった学会や講演会に、専門医の維持だけのために参加し続けるのは辛いと思います。

以上、研究だよりには相応しくない内容であったかもしれませんが。研修医や若手の1人でも手に取って頂き、少しでも皆様の参考になれば幸いです。

研究の成果

総合医学 1

■ 総合診療科

【原著論文】

- 1) Sanayama H, Namekawa M, Sakiyama Y, Sugawara H. Herpes Zoster Ophthalmicus Initially Diagnosed As Cluster Headache, Complicated by Delayed Eruption. *Cureus*. 2024 Mar 22;16 (3):e56698.
- 2) Yamashita T, Fukuchi T, Sugawara H, Okajima Y, Hiruta M. Consecutive Serious Medical Concomitants Associated With Extremely Severe Anorexia Nervosa in a Patient With Body Mass Index of 10.2 Kilograms per Square Meter: A Case Report. *Cureus*. 2024 Mar 7;16 (3):e55749.
- 3) Fukuchi T, Oyama-Manabe N, Sugawara H. Fukuchi-Manabe Score for Infection Control Measures During the Very Early COVID-19 Pandemic Period When Access to Reverse Transcription-Polymerase Chain Reaction Testing Was Poor in Japan: A Single-Center Observational Prospective Cohort Study. *Cureus*. 2024 Feb 23;16 (2):e54748.
- 4) Kurihara I, Sugawara H. A risk stratification model for high-flow nasal cannula use in patients with coronavirus disease 2019 in Japan: A single-center retrospective observational cohort study. *PLoS One*. 2024 Feb 23;19 (2):e0290937.
- 5) Suzuki R, Iizuka Y, Sugawara H, Lefor AK. Wearing masks is easy but taking them off is difficult - A situation in Japan during COVID-19 pandemic and after. *Dialogues Health*. 2024 Feb 3;4:100172
- 6) Marino Hirata, Takahiko Fukuchi, Hitoshi Sugawara, Ibuki Kurihara, Keishiro Sueda, Akira Ishi, Maya Takazawa, Yasuhiro Yamaguchi, Hisashi Oshiro, and Takuro Sakagami. *Mycobacterium abscessus* subspecies *massiliense* infection with anti-interferon-gamma autoantibodies. *Clinical Infection in Practice* 2024 Jan;21:100333
- 7) Matsumoto Y, Tanno K, Nakamura Y, Hamamoto K, Yoshihara H, Fukuchi T, Oyama-Manabe N, Sugawara H. Recurrent bicycle falls by an elderly

man who developed multiple intramuscular abscesses associated with urine leakage secondary to posterior urethral injury caused by pelvic ring disruption. *Clin Case Rep*. 2023 Jun 19;11 (6):e7576.

- 8) Adachi MM, Yoshida K, Fukuchi T, Tanaka A, Yamamoto N, Sugawara H. Extensive chronic perianal pyoderma associated with persistent inflammation caused by wearing the same unwashed underwear for more than ten years. *Clin Case Rep*. 2023 Jun 20;11 (6):e7477.

【学会発表】

- 1) Keishiro Sueda, Katsuyuki Yoshida, Ayaka Maeda, Yohei Kirino, Hisashi Ohshiro, Hitoshi Sugawara. VEXAS syndrome: a diagnostic challenge. The Society of Hospital Medicine (SHM) Converge Research, Innovations, and Clinical Vignette Scientific Abstract Competition, April 13-15th at the San Diego Convention Center, in San Diego, CA, United State.
- 2) 山本快亮, 福地貴彦, 菅原斉, 眞山英徳, 渡辺珠美, 鈴木伶奈, 小島巧実: 健康な成人男性のA群溶血性レンサ球菌 (GAS) による肺炎・肺膿瘍の一例. 第121回日本内科学会講演会, 東京, 2024年4月13日 (医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2024東京プログラム・抄録集:183, 2024)
- 3) 門坂麻耶子, 福地貴彦, 世沢文音, 岩井亜実, 大橋潤平, 山本真吾: *Streptococcus canis*菌血症の再発により人工弁置換術後の感染性心内膜炎を強く疑った1例. 第684回日本内科学会関東地方会, 東京, 2024年2月10日 (日本内科学会関東地方会 693回演題要旨37, 2024) 第693回関東地方会 奨励賞・指導医賞受賞 (演者: 門坂 麻耶子 指導医: 福地 貴彦)
- 4) 福地貴彦, 瀬戸那由太, 河上麻美代, 長島真美, 貞升健志, 畠山修司: ニューモシスチス肺炎でAIDSを発症したseronegative HIV infection症例における抗体反応の推移. 第37回日本エイズ学会学術集会・総会, 京都, 2023年12月5日 (O41-4)
- 5) 福地貴彦, 瀬戸那由太, 畠山修司: AIDS、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫、肺結核の治療中に発症し診断に苦慮した頭蓋内結核腫による免疫再構築症候群の一例. 第37回日本エイズ学会学術集会・総会, 京都, 2023年12月5日 (O41-1)

- 6) 相馬芽唯, 福地貴彦, 森裕也, 松本福子, 眞山英徳, 渡辺珠美, 菅原斉: ネコ咬傷による *Pasteurella multocida* 感染により敗血症性ショックとなった1例. 第691回日本内科学会関東地方会, 東京、2023年11月18日 (日本内科学会関東地方会691回演題要旨118, 2023)
 - 7) 松本福子, 渡辺珠美, 福地貴彦, 菅原斉: AIDS指標疾患が累積された後天性免疫不全症候群の一例. 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第71回日本化学療法学会西日本支部総会, 富山、2023年11月9日
 - 8) Takahiko Fukuchi. Prospective urine cultures in a Japanese rural nursing home. High detection rate of ESBL-producing *E. coli* in asymptomatic multiple-bacteriuria. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2023, Sydney, October 27, 2023. Medical education and research poster session 13
 - 9) Michiko Adachi, Hitoshi Sugawara. Come up with SAMS when skin rashes along the dermatome are seen. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2023, Sydney, October 26, 2023. Clinical practice poster session 19
 - 10) Yoko Matsumoto, Hitoshi Sugawara. Home-visit nursing care (HVNC) to prevent infectious diseases for an alcoholic patient living alone and the tips for the successful temperance. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2023, Sydney, October 26, 2023. Clinical practice poster session 15
 - 11) Tamami Watanabe. 72-hour mortality prediction in patients with the extremely high random plasma glucose > 500 mg/dL: A retrospective case-controlled cross-sectional study. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2023, Sydney, October 26, 2023. Clinical practice poster session 10 [410]
 - 12) Fukuko Matsumoto. Advanced anaplastic carcinoma of the pancreas resulted in the Sister Mary Joseph's node: An autopsy case. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2023, Sydney, October 26, 2023. Clinical practice poster session 8
 - 13) 齊藤亜実, 山本真吾, 藤田英雄, 末田敬志朗, 福地貴彦, 菅原斉, 瀬戸那由太, 鈴木貴之, 渡邊真弥, 崔龍洙: 16SrRNA遺伝子解析により同定し得た *Spodiobacter cordis* による感染性心内膜炎 (IE) の一例. 第269回 日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京、2023年9月2日 (第269回日本循環器学会関東甲信越地方会演題要旨Ⅲ-18, 2023)
 - 14) 浅野由騎, 白石夏央, 松永悠里, 松本福子, 渡辺珠美, 眞山英徳, 福地貴彦, 菅原斉: *Streptococcus suis* による髄膜炎に眼内炎、内耳炎が合併した1例. 第241回日本内科学会近畿地方会, 大阪、2023年9月2日 (日本内科学会近畿地方会241回演題要旨132, 2023)
 - 15) 山下貴大, 林秀磨, 末田敬志朗, 福地貴彦, 菅原斉: 原因不明の腹水貯留から診断に至った播種性結核の1例. 第684回日本内科学会関東地方会, 東京、2023年7月9日 (日本内科学会関東地方会688回演題要旨17, 2023)
 - 16) Takahiko Fukuchi. Three immunocompetent cases of rapidly growing Mycobacteria infection at a Japanese university hospital. APCCMI (Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection) 2023 Seoul July 07, 2023. Poster Presentation 3 P3-91
 - 17) Takahiro Yamashita, Shuma Hayashi, Keishiro Sueda, Takahiko Fukuchi, Hitoshi Sugawara. Drug-induced kidney injury caused by anti-tuberculosis drugs. ACP Japan 2023, Kyoto, June 24, 2023 (Web Meeting: C000028)
 - 18) 大川敦也, 福地貴彦, 菅原斉, 伊部達郎, 牧尚孝, 和田浩, 藤田英雄: ヒックマンカテーテル刺入部に生じた、*Mycobacterium fortuitum* 皮膚軟部組織感染症の1例. 第686回日本内科学会関東地方会, 東京、2023年5月20日 (日本内科学会関東地方会686回演題要旨105, 2023) 第686回関東地方会 奨励賞・指導医賞受賞 (演者: 大川 敦也 指導医: 福地 貴彦)
 - 19) 森裕也, 山下貴大, 石津久実佳, 林秀磨, 吉野望, 末田敬志朗, 渡辺珠美, 福地貴彦, 大城久, 菅原斉: 著明な肝脾腫大を来した血管内大細胞型B細胞リンパ腫 (IVLBCL) の1例. 第686回日本内科学会関東地方会, 東京、2023年5月20日 (日本内科学会関東地方会686回演題要旨53, 2023)
- 【その他】
- 1) 大河原晋, 眞山英徳, 菅原斉, 稲原祐輔, 中河綾子: さいたま市地域医療研究費補助事業報告書: さいたま市内初期臨床研修医の研修修了後における専門研修プログラム選択に関わる背景因子の検討. 2023年3月31日
 - 2) 福地貴彦: 4.感染症「重症患者が苦手」な研修医

へ 集中治療の極意を伝授 清水敬樹、文屋尚史 編集, 秀潤社、2023, 28-34

- 3) 福地貴彦: 抗菌薬アレルギー患者 教科書やガイドラインに載っていない! 悩ましい感染症治療薬の使い方 月刊薬事 2月臨時増刊号 じほう、2023, 65, 34-41
- 4) 福地貴彦: 44抗ウイルス薬: 呼吸器感染、46抗ウイルス薬: その他 シン・感染症999の謎 岩田健太郎編 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2023, 518-29, 546-554東京

■ 循環器内科

【原著論文】

- 1) Hayashi T, Yamamoto S, Ohashi J, Ugata Y, Sakakura K, Fujita H: Role of retrograde conduction from the left bundle to right bundle in determining the morphology of premature ventricular contractions triggering ventricular fibrillation. *HeartRhythm Case Rep* 10: 63-67, 2023
doi: 10.1016/j.hrcre.2023.10.024. PMID: 38264112; PMCID: PMC10801071
- 2) Konishi T, Virmani R, Jinnouchi H, Kawai K, Sekimoto T, Kawakami R, Finn AV: Plaque histological characteristics in individuals with sudden coronary death. *Vascul Pharmacol* 153: 107240, 2023
doi: 10.1016/j.vph.2023.107240. Epub 2023 Oct 28. PMID: 37898379.
- 3) Hori Y, Sakakura K, Jinnouchi H, Taniguchi Y, Tsukui T, Hatori M, Kasahara T, Watanabe Y, Yamamoto K, Seguchi M, Fujita H: Determinants of serious in-hospital complications in patients with Killip class 1/2 ST-segment elevation myocardial infarction who underwent primary percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels*, 2024
doi: 10.1007/s00380-024-02382-w. Epub ahead of print. PMID: 38498204.
- 4) Sakakura K: Can the Care-need Level Determined by Local Certification Board Predict Long-term Clinical Outcomes in Patients with Stroke? *JMA J* 7: 60, 2024
doi: 10.31662/jmaj.2023-0182. Epub 2023 Dec 27. PMID: 38314430; PMCID: PMC10834254.
- 5) Jinnouchi H, Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Hatori M, Tsukui T, Kasahara T, Watanabe Y, Seguchi M, Fujita H: Clinical Impact of In-Stent Calcification in Coronary Arteries: Optical Coherence Tomography Study. *Am J Cardiol* 214: 115-124, 2024
doi:10.1016/j.amjcard.2023.12.060. Epub 2024 Jan 15. PMID: 38232806.
- 6) Jinnouchi H, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Fujita H: A unique mechanism of restenosis after drug-coated balloon in peripheral artery: Insight from optical frequency domain imaging. *Cardiovasc Revasc Med* S1553-8389(23) 00927-2, 2023
doi: 10.1016/j.carrev.2023.12.004. Epub ahead of print. PMID: 38114363.
- 7) Konoma S, Sakakura K, Jinnouchi H, Taniguchi Y, Tsukui T, Hatori M, Tamanaha Y, Kasahara T, Watanabe Y, Yamamoto K, Seguchi M, Fujita H: Impact of the Japanese Version of High Bleeding Risk Criteria on Clinical Outcomes in Patients with ST-segment Elevation Myocardial Infarction. *J Atheroscler Thromb*, 2023
doi: 10.5551/jat.64445. Epub ahead of print. PMID: 38092385.
- 8) Nishimoto Y, Inohara T, Kohsaka S, Sakakura K, Kawai T, Kikuchi A, Watanabe T, Yamada T, Fukunami M, Yamaji K, Ishii H, Amano T, Kozuma K; J - PCI Registry Investigators: Changing Trends in Mechanical Circulatory Support Use and Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Interventions for Acute Coronary Syndrome Complicated With Cardiogenic Shock: Insights From a Nationwide Registry in Japan. *J Am Heart Assoc* 12: e031838, 2023
doi:10.1161/JAHA.123.031838. Epub 2023 Dec 1. PMID: 38038195; PMCID: PMC10727314.
- 9) Ikebe S, Ishii M, Otsuka Y, Nakamura T, Tsujita K, Matoba T, Kohro T, Oba Y, Kabutoya T, Imai Y, Kario K, Kiyosue A, Mizuno Y, Nochioka K, Nakayama M, Iwai T, Miyamoto Y, Sato H, Akashi N, Fujita H, Nagai R; CLIDAS research group: Impact of heart failure severity and major bleeding events after percutaneous coronary intervention on subsequent major adverse cardiac events. *Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev* 18: 200193, 2023
doi: 10.1016/j.ijcrp.2023.200193. PMID: 37415925; PMCID: PMC10320317.

- 10) Manabe O, Takahashi K, Kawakami H, Ohtsuka A, Aikawa T, Maki H, Ibe T, Fujita H, Oyama-Manabe N: Diagnostic values of delayed additional FDG PET/CT scan in the evaluation of cardiac sarcoidosis. *Ann Nucl Med* 37: 535-540, 2023
doi: 10.1007/s12149-023-01855-8. Epub 2023 Jul 7. PMID: 37418117.
- 11) Yokomachi J, Fukuda T, Mizushima Y, Nozawa N, Ishizaka H, Matsumoto K, Kambe T, Inoue S, Nishikawa K, Toyama Y, Takahashi R, Arakawa T, Yagi H, Yamaguchi S, Ugata Y, Nakamura F, Sakuma M, Abe S, Fujita H, Mizushima T, Toyoda S, Nakajima T: Clinical usefulness of phase angle as an indicator of muscle wasting and malnutrition in inpatients with cardiovascular diseases. *Asia Pac J Clin Nutr* 32: 297-307, 2023
doi: 10.6133/apjcn.202309_32 (3). 0001. PMID: 37789650.
- 12) Sato M, Kodera S, Setoguchi N, Tanabe K, Kushida S, Kanda J, Saji M, Nanasato M, Maki H, Fujita H, Kato N, Watanabe H, Suzuki M, Takahashi M, Sawada N, Yamasaki M, Sawano S, Katsushika S, Shinohara H, Takeda N, Fujiu K, Daimon M, Akazawa H, Morita H, Komuro I: Deep Learning Models for Predicting Left Heart Abnormalities From Single-Lead Electrocardiogram for the Development of Wearable Devices. *Circ J* 88: 146-156, 2023
doi: 10.1253/circj.CJ-23-0216. Epub 2023 Nov 14. PMID: 37967949.
- 13) Otsuka Y, Ishii M, Ikebe S, Nakamura T, Tsujita K, Kaikita K, Matoba T, Kohro T, Oba Y, Kabutoya T, Kario K, Imai Y, Kiyosue A, Mizuno Y, Nochioka K, Nakayama M, Iwai T, Miyamoto Y, Sato H, Akashi N, Fujita H, Nagai R: CLIDAS research group. BNP level predicts bleeding event in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. *Open Heart* 10: e002489, 2023
doi: 10.1136/openhrt-2023-002489. PMID: 38065584; PMCID: PMC10711837.
- 14) Akashi N, Umemoto T, Yamada H, Fujiwara T, Yamamoto K, Taniguchi Y, Sakakura K, Wada H, Momomura SI, Fujita H: Teneligliptin, a DPP-4 Inhibitor, Improves Vascular Endothelial Function via Divergent Actions Including Changes in Circulating Endothelial Progenitor Cells. *Diabetes Metab Syndr Obes* 16: 1043-1054, 2023
doi: 10.2147/DMSO.S403125. PMID: 37077576; PMCID: PMC10108873.
- 15) Murakami T, Sakakura K, Jinnouchi H, Taniguchi Y, Tsukui T, Hatori M, Tamanaha Y, Kasahara T, Watanabe Y, Yamamoto K, Seguchi M, Wada H, Fujita H. Development of a simple prediction model for mechanical complication in ST-segment elevation myocardial infarction patients after primary percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels* 39: 288-298, 2024
doi: 10.1007/s00380-023-02336-8. Epub 2023 Nov 27. PMID: 38008806.
- 16) Yamashita T, Sakakura K, Jinnouchi H, Taniguchi Y, Tsukui T, Hatori M, Tamanaha Y, Kasahara T, Watanabe Y, Yamamoto K, Seguchi M, Fujita H: Impact of Excessive Increase in Systolic Blood Pressure after Exercise on Clinical Outcomes in Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. *J Clin Med* 12:6928, 2023
doi: 10.3390/jcm12216928. PMID: 37959393; PMCID: PMC10647226.
- 17) Sakakura K, Jinnouchi H, Taniguchi Y, Tsukui T, Watanabe Y, Yamamoto K, Seguchi M, Fujita H: Halftime rotational atherectomy: a unique concept for diffuse long severely calcified lesions. *Cardiovasc Interv Ther* 39: 18-27, 2024
doi: 10.1007/s12928-023-00968-1. Epub 2023 Nov 10. PMID: 37947951; PMCID: PMC10764388.

【学会発表】

- 1) 明石直之：心血管合併症予防を見据えた高尿酸血症治療を考える 高尿酸血症と心血管疾患の関係性～高尿酸血症の観察研究と介入研究を振り返る～、第44回 日本臨床薬理学会学術総会、2023年12月14日、神戸
- 2) Akashi N, Kuwabara M, Matoba T, Kohro T, Oba Y, Kabutoya T, Imai Y, Kario K, Kiyosue A, Mizuno Y, Nochioka K, Nakayama M, Iwai T, Miyamoto Y, Ishii M, Nakamura T, Tsujita K, Sato H, Fujita H, Nagai R : Clinical Prognostic Impact of Oral Diuretics on Uric Acid in Patients with Coronary Artery Disease: Insights from the CLIDAS Database、第88回 日本循環器学会学術集会、2024年3月8日、神戸

- 3) 明石直之：痛風・尿酸核酸領域のアップデート～最近の論文まとめ読み～ 高血圧、第57回 日本痛風・尿酸核酸学会総会、2024年3月1日、鳥取

【その他】

- 1) 陣内博行：石灰化病変におけるWolverineの役割、Scoring Balloon Joint Conference～最適なLesion Preparationを再考する～、OrbusNeich、2023年11月14日、Web開催
- 2) 藤田英雄：心血管イベント抑制を考慮した糖尿病治療～GLP-1受容体作動薬のエビデンスと期待～、糖尿病治療Update Seminar、ノボノルディスファーマ株式会社、2023年11月28日、Web開催
- 3) 林達哉：クライオアブレーション有効活用～活用しなけりゃ生きてけない～～ライフハックを添えて～、CRYO Web CONFERENCE、2024年1月11日、Web開催
- 4) 林達哉：クライオアブレーション有効活用～活用しなけりゃ生きてけない～～ライフハックを添えて～、Medtronic Web Conference、2024年1月14日、Web開催
- 5) 林達哉：Freezor Extra有効活用～活用しなけりゃ生きてけない～、Freeze Arrhythmia、2024年1月24日、Web開催
- 6) 林達哉：クライオアブレーション有効活用～活用しなけりゃ生きてけない～～ライフハックを添えて～、Cryo Next in Saitama、2024年1月27日、Web開催
- 7) 林達哉：ある日“心房細動”と診断されたら？～人生100年時代を生き抜くために～、令和5年度第2回自治医大さいたま医療センター市民公開講座、2024年2月4日、さいたま市
- 8) 林達哉：心房細動の治療は基幹病院だけでは完結しない！-心房細動ネットワークへの期待-、さいたま市地域医療研究補助事業講演会、2024年2月7日、さいたま市
- 9) 牧尚孝：肥大型心筋症の鑑別における心アミロイドシスの重要性、循環器疾患連携セミナー～心アミロイドシス早期診断のupdate～、ファイザー株式会社、2024年2月21日、Web開催
- 10) 山本慶：IVUSガイドPCIをもう1歩深めるために知っておくこと、Meet The Expert -循環器疾患の最前線に迫る- vol.3、アストラゼネカ株式会社/小野薬品工業株式会社、2024年2月22日、Web開催
- 11) 林達哉：summitへの挑戦～弱虫フットペダル～、SAITAMA Ablation Summit、2024年2月22日
- 12) 山本真吾：カテーテルアブレーション温故知新、Meet The Expert -循環器疾患の最前線に迫る- vol.3、アストラゼネカ株式会社/小野薬品工業株式会社、2024年2月22日、Web開催
- 13) 明石直之：BNP/NT-proBNPから読み解く 最新の慢性心不全治療、Meet The Expert -循環器疾患の最前線に迫る- vol.3、アストラゼネカ株式会社/小野薬品工業株式会社、2024年2月22日、Web開催
- 14) 陣内博行：OFDIを活用したEVT症例、EVT×Imaging Seminar、テルモ株式会社、2024年2月28日、Web開催
- 15) 林達哉：EnSite™ XでVTを攻略する、Abbott Web講演会、Vol.1 講演1、2024年3月
- 16) 牧尚孝：糖尿病と循環器合併症例でのイメージミンの使用経験、DUAL Seminar for 循環器、住友ファーマ株式会社、2024年3月5日、Web開催
- 17) 羽鳥将史：「病棟業務における最適な電解質管理を考える」、HK Expert Symposium、2024年4月12日、Web開催

【著書・総説】

- 1) 林達哉：フレッシュヤーズからベテランまで 今知りたい心房細動治療. 診断と治療, 112巻1号, 2024.

■ 消化器内科

【原著論文】

- 1) Matsumoto K, Sekine M, Mashima H. New technique of guidewire exchange for transanal decompression tube placement. Dig Endosc. 2023 Nov 28. doi: 10.1111/den.14716. Online ahead of print. PMID: 38014875
- 2) Kojima S, Matsumoto S, Koito Y, Miura T, Sekine M, Uehara T, Asano T, Yamaguchi Y, Mashima H. Successful Response to Golimumab in a Case of Relapsing Polychondritis Overlapping with Ulcerative Colitis. Biologics. 2024 Jan 12;18:1-6.
- 3) Sekine M, Mizutani T, Hashimoto R, Sasaki G, Sato A, Kojima S, Matsumoto K, Uehara T, Asano T, Mashima H. The extraction of difficult bile duct stones in a patient with surgically altered anatomy using a novel retrieval basket and a short-type single-balloon enteroscopy. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Apr 9. doi: 10.1002/jhbp.1427. PMID: 38594831
- 4) Takahashi K, Mashima H, Sekine M, Uehara T,

Asano T, Sun-Wada GH, Wada Y, Ohnishi H. Rab7 localized on zymogen granules is involved in maturation but not in autophagy or regulated exocytosis in pancreatic acinar cells. Sci Rep. 2023 Dec 12;13 (1):22084.

- 5) 今井友里加、石井剛弘、小島柊、佐々木吾也、小糸雄大、三浦孝也、上原健志、眞嶋浩聡：ダブルバルーン内視鏡で止血し得た小腸Dieulafoy病変の2例。Progress of Digestive Endoscopy 102(1), 98-100, 2023.

【学会発表】

- 1) Asano T, Yoshikawa S, Asabe S, Mashima H. Usefulness of 3-year administration of pemaifibrate for patients with PBC with dyslipidemia., The APASL Annual Meeting 2024 (アジア太平洋肝臓学会), 2024年3月27-31日, 京都
- 2) Asano T, Yoshikawa S, Asabe S, Mashima H. Hypozincemia and zinc supplementation in patients with chronic liver disease., The APASL Annual Meeting 2024 (アジア太平洋肝臓学会), 2024年3月27-31日, 京都
- 3) 浅野岳晴：C型肝炎治療とがん検診時の注意点～奈良宣言を含め～, 日本高齢消化器病学会／日本がん検診・診断学会 合同セミナー, 2024年1月27日, 東京都千代田区
- 4) 橋本凌, 佐藤杏美, 松本圭太, 吉川修平, 水谷琢, 青山佳代子, 萩原拓哉, 佐々木吾也, 小島柊, 森野美奈, 勝部聡太, 小糸雄大, 三浦孝也, 石井剛弘, 松本吏弘, 関根匡成, 浅野岳晴, 上原健志, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：小腸狭窄をきたした好酸球性小腸炎の一例。第377回日本消化器病学会関東支部例会, 2023年12月9日, 東京
- 5) 小島柊, 松本圭太, 関根匡成, 眞嶋浩聡：経肛門的イレウス管留置におけるガイドワイヤー交換を用いた新手技。JGES-Kanto Cup. 第117回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2023年12月9-10日, 東京
- 6) 水谷琢, 三浦孝也, 萩原拓哉, 佐々木吾也, 佐藤杏美, 小島柊, 勝部聡太, 森野美奈, 松本圭太, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 高橋裕子, 石井剛弘, 吉川修平, 大竹はるか, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：腸管パーチェットとTrisomy 8陽性消化管病変の診断が困難だった一例。第117回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2023年12月9-10日, 東京
- 7) 萩原拓哉, 石井剛弘, 松本圭太, 佐藤杏美, 橋本凌, 水谷琢, 青山佳代子, 小島柊, 佐々木吾也, 森野美奈, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 三浦孝也, 吉川修平, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：パテンシーカプセル滞留に起因する腸閉塞の2例。第378回日本消化器病学会関東支部例会, 2024年2月17日, 東京
- 8) 三浦孝也, 松本吏弘, 今井友里加, 勝部聡太, 松本圭太, 森野美奈, 小糸雄大, 賀嶋ひとみ, 高橋裕子, 石井剛弘, 吉川修平, 大竹はるか, 上原健志, 関根匡成, 浅野岳晴, 眞嶋浩聡：高齢者における大腸T1癌に対するESDの成績と予後因子の検討（ワークショップ2, 大腸T1癌の診断・治療の最前線）。第49回日本消化器内視鏡学会埼玉部会学術講演会, 2023年11月18日, 大宮
- 9) 関根匡成, 水谷琢, 橋本凌, 青山佳代子, 小島柊, 佐藤杏美, 佐々木吾也, 眞嶋浩聡：当院における悪性胆道狭窄に対するERCP不成功後の対応（ワークショップ3, 難渋する悪性胆道狭窄への対応）。第49回日本消化器内視鏡学会埼玉部会学術講演会, 2023年11月18日, 大宮
- 10) 水谷琢, 三浦孝也, 佐藤杏美, 佐々木吾也, 小島柊, 松本圭太, 小糸雄大, 石井剛弘, 吉川修平, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡, 長谷部龍士, 渡部文昭, 力山敏樹：血便を契機に診断された成人消化管重複症の一例。第379回日本消化器病学会関東支部例会, 2024年4月27日, 東京

【その他】

- 1) 宮谷博幸：消化器領域における漢方の役割～食欲不振を中心に～, 所沢医師会学術講演会, 2023年12月7日, 所沢市
- 2) 宮谷博幸：消化器疾患における漢方治療の役割. TSUMURA RKT Seminar in MIE, 2024年1月12日, 津市
- 3) 宮谷博幸：胃がん内視鏡検診におけるpitfallとその対策. 春日部市医師会学術講演会－胃がん内視鏡検診向上に向けて－, 2024年2月6日, 春日部市
- 4) 宮谷博幸：胃酸分泌抑制と上部消化管疾患. Gastroenterology & Oncology Joint Seminar in Saitama, 2024年2月14日, さいたま市
- 5) 松本吏弘：持続性下痢を呈し潰瘍性大腸炎が疑われた1例. 第4回関東甲信越 IBD NEXT Meeting, 2024年1月19日, さいたま市
- 6) 松本吏弘：早期胃癌のスクリーニングのコツとピットフォール：噴門部. 大宮医師会胃がん検診委員会, 2024年1月25日, さいたま市

- 7) 松本吏弘：潰瘍性大腸炎を「診る」ポイント. Saitama IBD Seminar, 2024年2月1日, さいたま市
- 8) 松本吏弘：超高齢化時代におけるUCの治療戦略. IBD Web Seminar in East Tokyo, 2024年2月29日 (全国Web講演)
- 9) 松本吏弘：新たなガイドラインを踏まえた便秘の治療戦略. Viatrix Lunch Meeting, 2024年3月11日 (Web講演)
- 10) 松本吏弘：クローン病の難敵病変に挑む～スキリージの有効性と期待～. Skyrizi Internet Live Seminar, 2024年3月27日 (Web講演)
- 11) 松本吏弘：新たなガイドラインを踏まえた便秘の治療戦略, 便通異常症WEBセミナー, 2024年4月12日 (全国Web講演)
- 12) 松本吏弘：JAKの使いどころとは?～JAKの光と影を考える～. UC Meet The Expert in 埼玉, 2024年4月17日, さいたま市
- 13) 浅野岳晴：心血管病リスクとしての脂肪肝とFIB-4 index ～奈良宣言を受けて～, 循環器と日常2023年大雪, 2023年12月11日, さいたま市
- 14) 浅野岳晴：進行肝細胞癌に対する薬物治療 ～STRIDEレジメンの使用経験から～, HCC Immuno-Oncology Seminar, 2023年12月15日, さいたま市
- 15) 浅野岳晴：肝硬変に対する当院の観血的手技と薬物治療の現状, ドブテレット発売記念講演会in Saitama, 2024年1月11日, さいたま市
- 16) 浅野岳晴：脂質異常症・糖尿病を合併した肝疾患の治療戦略 –奈良宣言を受けて–, 第17回大宮内科医会学術講演会, 2024年1月16日, さいたま市
- 17) 浅野岳晴：肝臓機能障害, 令和5年度身体障害者福祉法第15条指定医師研修会, 2024年1月28日, さいたま市

【著書・総説】

- 1) 松本吏弘：免疫調節薬・免疫抑制薬の役割は? IBD Research. 17 (4): 256-261, 2023.
- 2) 松本吏弘, 他：食道上皮下病変の粘膜切開直視下生検. 胃と腸. 59 (3): pp350-353, 2023.
- 3) 関根匡成、大西洋英、眞嶋浩聡：膵NENの画像診断—EUSを中心に— 膵臓 (特集 膵NENの診断・治療) 38;367-374:2023
- 4) 関根匡成、眞嶋浩聡：【実地で役立つ膵癌・胆道癌診療のポイント】慢性膵炎と膵癌. Medical Practice 40 (12):1843-1847,2023.

■ 呼吸器内科

【原著論文】

- 1) Nishihara-Kato F, Imai H, Tsuda T, Wasamoto S, Nagai Y, Kashikawa T, Miura Y, Ono A, Yamada Y, Masubuchi K, Osaki T, Nakagawa J, Umeda Y, Minemura H, Kozu Y, Taniguchi H, Ohta H, Kaira K, Kagamu H. Prognostic Potential of the Prognostic Nutritional Index in Non-Small Cell Lung Cancer Patients Receiving Pembrolizumab Combination Therapy with Carboplatin and Paclitaxel/Nab-Paclitaxel: Oncology 2024;102 (1):30-42.
- 2) Watanabe S, Furuya N, Nakamura A, Shiihara J, Nakachi I, Tanaka H, Nakao M, Minato K, Seike M, Sasaki S, Kisohara A, Takeuchi S, Honda R, Takamura K, Kagamu H, Yoshimura K, Kobayashi K, Kikuchi T. A phase II study of atezolizumab with bevacizumab, carboplatin, and paclitaxel for patients with EGFR-mutated NSCLC after TKI treatment failure (NEJ043 study): Eur J Cancer 2024 Jan;197:113469
- 3) Yamaguchi O, Mori K, Takata S, Shibata K, Chikamori K, Kimura N, Nagai Y, Nakagawa T, Igawa S, Harada T, Yoshioka H, Tanaka H, Nogawa H, Satoh H, Shiozawa T, Tsuji K, Kobayashi K, Kaira K. Extended ICI treatment after first-line chemoimmunotherapy could predict the clinical benefit of ramucirumab plus docetaxel in advanced non-small lung cancer: Thorac Cancer 2024 Jan;15 (2):163-171
- 4) Nomura M, Yuzawa M, Hiruta M, Ohta H. Acute respiratory failure developing in a patient with lymphomatoid granulomatosis. BMJ Case Rep. 2023 Dec 16;16 (12):e255697

【著書 総論】

- 1) 山口泰弘：高齢者のcommon disease 呼吸不全、COPD.日本医師会雑誌. 152 (10) 1136-1137, 2024

【学会発表】

- 1) 甘利ひかり、椎原淳、糸川勝博、田原浩樹、齊藤健也、前田悠希、野村基子、長井良昭、太田洋充、山口泰弘：当院において長期にわたり免疫チェックポイント阻害薬を投与した症例の検討、第64回日本呼吸器学会学術講演会、2024年4月5日、横浜
- 2) 田原浩樹、長井良昭、甘利ひかり、齊藤健也、前

田悠希、椎原淳、太田洋充、山口泰弘：当院における進行肺癌初回治療でのニボルマブ＋イピリマブを含むレジメンの治療効果と関連する因子の解析、第64回日本呼吸器学会学術講演会、2024年4月5日、横浜

- 3) 山口泰弘：呼吸機能の加齢変化と肺疾患、第64回日本呼吸器学会学術講演会、2024年4月7日、横浜

■ 血液科

2023年1月～12月 発表

【原著論文】

- 1) Akahoshi Y, Nakasone H, Takenaka K, et al.: CMV reactivation after allogeneic HCT is associated with a reduced risk of relapse in acute lymphoblastic leukemia. *Blood Adv.* 7 (12):2699-2708, 2023
- 2) Akahoshi Y, Tada Y, Sakaida E, et al.: Novel risk assessment for the intensity of conditioning regimen in older patients. *Blood Adv.* 7(17):4738-4747, 2023
- 3) Araie H, Arai Y, Kida M, et al.: Poor outcome of allogeneic transplantation for therapy-related acute myeloid leukemia induced by prior chemoradiotherapy. *Ann Hematol.* 102 (10):2879-2893, 2023
- 4) Fuji S, Hakoda A, Kanda J, et al.: Impact of HLA disparity on overall mortality risk in patients with extensive chronic GVHD: The HLA Working Group of Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. *Bone Marrow Transplant.* 58 (11):1257-1259, 2023
- 5) Fujii N, Onizuka M, Fukuda T, et al.: Clinical characteristics of late-onset interstitial pneumonia after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Int J Hematol.* 118 (2):242-251, 2023 (August)
- 6) Gomyo A, Kimura SI, Suzuki J, et al.: Clinical Impact of Pretransplantation Physical Function on Transplantation after Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Older Adults. *Transplant Cell Ther.* 29 (11):721.e721-721.e728, 2023
- 7) Harada K, Onizuka M, Mori T, et al.: Prognostic factors for the development of lower respiratory tract infection after influenza virus infection in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation recipients: A Kanto Study Group for Cell Therapy multicenter analysis. *Int J Infect Dis.* 131:79-86, 2023
- 8) Hirabayashi S, Kondo T, Nishiwaki S, et al.: Impact of MRD on clinical outcomes of unrelated hematopoietic stem cell transplantation in patients with Ph. *Am J Hematol.* 98 (10):1606-1618, 2023
- 9) Jo T, Arai Y, Kanda J, et al.: A convolutional neural network-based model that predicts acute graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Commun Med (Lond).* 3 (1) :67, 2023
- 10) Kako S.: Prophylactic or pre-emptive therapies to prevent relapse after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. (PIH Guest Editorial) *Int J Hematol.* 118:155-157, 2023
- 11) Kako S, Kimura SI, Wada H, et al.: Treatment strategy at the decision for allogeneic transplantation in patients with myelodysplastic syndrome in the era of azacitidine: A KSGCT prospective study. *Leuk Res.*133:107371, 2023
- 12) Kameda K, Yanagiya R, Miyatake Y, et al.: The hepatic niche leads to aggressive natural killer cell leukemia proliferation through the transferrin-transferrin receptor 1 axis. *Blood.* 142 (4):352-364, 2023
- 13) Kanda Y, Mori T, Narita A, Wolter KD, Yoshimatsu H, Nishimura K.: Efficacy and safety of equine anti-thymocyte immunoglobulin (eATG) in three Japanese patients with moderate to very severe aplastic anemia: a case series. *Int J Hematol.* 117 (1):37-43, 2023
- 14) Kanda Y, Usuki K, Inagaki M, et al.: Decision analysis of allogeneic bone marrow transplantation versus immunosuppressive therapy for young adult patients with aplastic anemia. *Int J Hematol.* 117 (5):660-668, 2023
- 15) Kimura SI, Akahoshi Y, Shiratori S, et al.: Association Between Candidemia and Noninfectious Interstitial Pneumonia After Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation: JSTCT Transplant Complications Working Group. *Open Forum Infect Dis.* 10 (4):ofad163, 2023
- 16) Kimura SI, Shimizu H, Miyazaki T, et al.: Impact of standard-dose dipeptidyl peptidase-4 inhibitors on the incidence of graft-versus-

- host disease after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 58 (4):452-455, 2023
- 17) Kohno S, Izumikawa K, Takazono T, et al.: Efficacy and safety of isavuconazole against deep-seated mycoses: A phase 3, randomized, open-label study in Japan. *J Infect Chemother.* 29 (2):163-170, 2023
 - 18) Konuma T, Kanda J, Uchida N, et al.: Intensified conditioning regimens improved disease-free survival and engraftment after unrelated single-unit cord blood transplantation but not after matched sibling or matched unrelated donor allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Hematol Oncol.* 41 (1):147-158, 2023
 - 19) Konuma T, Matsuda K, Shimomura Y, et al.: Effect of Graft-versus-Host Disease on Post-Transplantation Outcomes following Single Cord Blood Transplantation Compared with Haploidentical Transplantation with Post-Transplantation Cyclophosphamide for Adult Acute Myeloid Leukemia. *Transplant Cell Ther.* 29 (6):365.e361-365.e311, 2023
 - 20) Konuma T, Takano K, Monna-Oiwa M, et al.: Clinical implications of augmented renal clearance after unrelated single cord blood transplantation in adults. *Int J Hematol.* 118:718-725, 2023
 - 21) Kusuda M, Nakasone H, Nakamura Y, et al.: Very early death within 30 days after diagnosis in patients with acute myeloid leukemia. *Int J Hematol.* 117 (2):198-205, 2023
 - 22) Kusuda M, Nakasone H, Yoshimura K, et al.: Gene expression and TCR amino acid sequences selected by HLA-A02:01-restricted CTLs specific to HTLV-1 in ATL patients. *Br J Haematol.* 202 (3):578-588, 2023
 - 23) Kurosawa S, Yamaguchi T, Mori A, et al.: Incidence and predictors of recurrent sick leave in survivors who returned to work after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *J Cancer Surviv.* 17:781-794, 2023
 - 24) Matsumi S, Kimura SI, Nakamura Y, et al.: Substitution of calcineurin inhibitors with corticosteroids after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Int J Hematol.* 118 (4):450-461, 2023
 - 25) Minakata D, Fujiwara SI, Yokoyama D, et al.: Relapsed and refractory multiple myeloma: A systematic review and network meta-analysis of the efficacy of novel therapies. *Br J Haematol.* 200 (6):694-703, 2023
 - 26) Minakata D, Ishida T, Ando K, et al.: Phase 2 results of idecabtagene vicleucel (ide-cel, bb2121) in Japanese patients with relapsed and refractory multiple myeloma. *Int J Hematol.* 117 (5):729-737, 2023
 - 27) Misaki Y, Minakata D, Ibe T, et al.: Chronic active Epstein-Bar virus infection complicated by pulmonary artery hypertension. *J Infect Chemother.* 29 (2):212-218, 2023
 - 28) Nagayama T, Fujiwara SI, Tominaga R, et al.: Early reversal of the lymphocyte-to-monocyte ratio after allogeneic-hematopoietic stem cell transplantation is associated with reduced relapse and improved prognosis. *Clin Transplant.* 37 (12):e15116, 2023
 - 29) Nakamura Y, Kawamura S, Matsumi S, et al.: [Anti-MDA5 antibody-positive rapidly progressive interstitial lung disease after allogeneic hematopoietic cell transplantation successfully treated with triple immunosuppressive therapy]. *Rinsho Ketsueki.* 64 (4):250-254, 2023
 - 30) Nakamura Y, Mori T, Kako S, et al.: Outcome of peripheral blood stem cell transplantation from HLA-identical sibling donors for adult patients with aplastic anemia. *Int J Hematol.* 117 (3):356-365, 2023
 - 31) Nakano N, Nakasone H, Fuji S, et al.: Outcomes in human T-cell leukemia virus type I carriers after hematopoietic stem cell transplantation for diseases other than adult T cell leukemia/lymphoma: a Japanese national survey. *Lancet Reg Health West Pac.* 40:100902, 2023
 - 32) Nakasone H.: Prophylactic or preemptive tyrosine kinase inhibitor therapy after allogeneic hematopoietic cell transplantation for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol.* 118 (2):183-192, 2023
 - 33) Nishiwaki S, Sugiura I, Fujisawa S, et al.: High-risk Combinations of Additional Chromosomal Abnormalities in Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia: JALSG Ph+ALL TKI-SCT Study. *Hemasphere.* 7:e899,

- 2023
- 34) Okada Y, Kimura F, Kurita N, et al.: Adverse impact of delay of platelet recovery after autologous hematopoietic cell transplantation for aggressive non-Hodgkin lymphoma and multiple myeloma. *Cytotherapy*. 25 (11):1212-1219, 2023
 - 35) Okada Y, Nakasone H, Yoshimura K, et al.: Plasma ubiquitin C-terminal hydrolase-L1 (UCH-L1) level as a blood biomarker of neurological damage after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Int J Hematol*. 118 (3):340-346, 2023
 - 36) Ritchie EK, Cella D, Fabbiano F, et al.: Patient-reported outcomes from the phase 3 ADMIRAL trial in patients with. *Leuk Lymphoma*. 64 (5):938-950, 2023
 - 37) Saburi M, Oshima K, Takano K, et al.: Risk factors and outcome of *Stenotrophomonas maltophilia* infection after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: JSTCT, Transplant Complications Working Group. *Ann Hematol*. 102 (9):2507-2516, 2023
 - 38) Sakamoto K, Baba S, Okumura Y, et al.: Comparison and Development of Immunohistochemical Diagnostic Criteria for Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm. *Mod Pathol*. 36 (10):100253, 2023
 - 39) Shimizu H, Najima Y, Kako S, et al.: Clinical significance of late CMV disease in adult patients who underwent allogeneic stem cell transplant. *J Infect Chemother*. 29 (12):1103-1108, 2023
 - 40) Shimomura Y, Kitamura T, Nishikubo M, et al.: Effect of the COVID-19 pandemic on allogeneic stem cell transplantation in Japan. *Int J Hematol*. 117 (4):590-597, 2023
 - 41) Shimomura Y, Komukai S, Kitamura T, et al.: Identifying the optimal conditioning intensity for stem cell transplantation in patients with myelodysplastic syndrome: a machine learning analysis. *Bone Marrow Transplant*. 58(2):186-194, 2023
 - 42) Suzuki K, Mizuno S, Shimazu Y, et al.: Tandem autologous stem cell transplantation in elderly patients with myeloma: A multicenter retrospective analysis. *Eur J Haematol*. 110 (4):444-454, 2023
 - 43) Suzuki K, Shimazu Y, Minakata D, et al.: Efficacy of Autologous Stem Cell Transplantation for Myeloma Patients with Suboptimal Response: A Multicenter Retrospective Analysis. *Transplant Cell Ther*. 29 (11):688.e681-688.e613, 2023
 - 44) Takamatsu H, Matsuda T, Mizuno S, et al.: Changing trends in the risk factors for second primary malignancies after autologous stem cell transplantation for multiple myeloma before and after the introduction of proteasome inhibitors and immunomodulatory drugs. *Haematologica*. 108 (12):3399-3408, 2023
 - 45) Tamaki M, Akahoshi Y, Ashizawa M, et al.: Impact of anti-thymocyte globulin on survival outcomes in female-to-male allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Sci Rep*. 13 (1):7166, 2023
 - 46) Tamaki M, Akahoshi Y, Okada Y, et al.: Unrelated female-to-male bone marrow transplantation would be preferred over cord blood transplantation in male patients. *Cytotherapy*. 25 (11):1220-1228, 2023
 - 47) Tominaga R, Yoshimura K, Kawamura M, et al.: Secondary Budd-Chiari syndrome caused by adult T-cell leukemia/lymphoma. *Pathol Int*. 73 (10):520-522, 2023
 - 48) Umino K, Morita K, Ikeda T, et al.: Antibody-mediated pathogenesis of chronic GVHD through DBY/HLA class II complexes and induction of a GVL effect. *Blood*. 142 (11):1008-1021, 2023
 - 49) Usuki K, Ikezoe T, Ishiyama K, et al.: Interim analysis of post-marketing surveillance of ravulizumab for paroxysmal nocturnal hemoglobinuria in Japan. *Int J Hematol*. 118 (3):311-322, 2023
 - 50) Wakamatsu M, Murata M, Kanda J, et al.: Different effects of thymoglobulin on acute leukemia with pre-transplant residual blasts in HLA mismatch transplantation. *Int J Hematol*. 117 (6):889-899, 2023
 - 51) Wakita S, Marumo A, Morita K, et al.: Mutational analysis of DNMT3A improves the prognostic stratification of patients with acute myeloid leukemia. *Cancer Sci*. 114 (4):1297-1308, 2023
 - 52) Yanada M, Shimomura Y, Mizuno S, et al.: External validation and extended application of the transplant conditioning intensity score in acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant*. 58 (10):1096-1103, 2023
 - 53) Yanada M, Yamasaki S, Konuma T, et al.: Age and allogeneic hematopoietic cell transplantation outcomes in acute myeloid leukemia. *Int J*

- Hematol. 2023;117 (3):398-408.
- 54) Yanagisawa R, Hirakawa T, Doki N, et al.: Severe short-term adverse events in related bone marrow or peripheral blood stem cell donors. Int J Hematol. 117 (3):421-427, 2023
 - 55) Yanagisawa R, Tamaki M, Tanoshima R, et al.: Risk factors for fatal cardiac complications after allogeneic hematopoietic cell transplantation: Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy transplant complications working group. Hematol Oncol. 41 (3):535-545, 2023
 - 56) Yoshino N, Kimura SI, Matsuoka A, et al.: Clinical features of febrile neutropenia and bloodstream infection in autologous hematopoietic cell transplantation: Comparison to those in intensive chemotherapy for acute myeloid leukemia. J Infect Chemother. 29(4):384-390, 2023
- 【学会発表】
- <国内学会>
- 1) 仲宗根秀樹：移植後サイトメガロウイルス再活性化と免疫再構築. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会、2023年2月10-12日、名古屋
 - 2) 川村俊人、仲宗根秀樹、竹下絢子、石川拓斗、松岡あかり、米野友啓、中村侑平、河村匡捷、吉野 望、三崎柚季子、後明晃由美、吉村一樹、岡田陽介、玉置雅治、楠田待子、亀田和明、谷原亜紀、木村俊一、賀古真一、神田善伸：非血縁者間移植におけるドナー年齢が移植後CMV感染に与える影響に関する検討. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会、2023年2月10日-12日、名古屋
 - 3) 木村俊一、清水啓明、宮崎拓也、櫻井政寿、田上 晋、柏森健介、大和田千桂子、吉村一樹、仲宗根秀樹、大橋卓馬、鐘野勝洋、立花崇孝、畑野かおる、岡田啓五、木村勇太、瀬尾幸子、土岐典子、田中正嗣、八田善弘、高橋 聡、神田善伸：標準量DPP-4阻害薬がGVHD発症に与える影響. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会、2023年2月10日、名古屋/web
 - 4) 赤星 佑：フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対する同種造血幹細胞移植. 第45回日本造血細胞移植学会総会、2023年2月11日、名古屋/web
 - 5) 岡田陽介、仲宗根秀樹、中村侑平、河村匡捷、川村俊人、竹下絢子、吉野 望、三崎柚季子、吉村一樹、後明晃由美、谷原亜紀、玉置雅治、楠田待子、木村俊一、賀古真一、真鍋徳子、神田 善伸：同種移植後にみられる脾萎縮とその回復. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会、2023年2月11日、名古屋
 - 6) 玉置雅治、赤星 佑、蘆沢正弘、三崎柚希子、厚井聡志、金 成元、小澤幸泰、藤原慎一郎、賀古真一、松岡賢市、澤 正史、片山雄太、鬼塚真仁、神田善伸、福田隆浩、熱田由子、薬師神公和、仲宗根秀樹：性別不一致同種造血幹細胞移植における抗胸腺細胞グロブリンの意義. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会、2023年2月11日、名古屋
 - 7) 木村俊一、赤星 佑、白鳥聡一、冲中敬二、原田介斗、内田直之、土岐典子、池亀和博、中前博久、田中正嗣、高田 覚、河北敏郎、松岡賢市、荒 隆英、太田秀一、澤 正史、鬼塚真仁、福田隆浩、熱田由子、神田善伸、仲宗根秀樹：同種造血細胞移植後のカンジダ血症と非感染性間質性肺炎との関連：JSTCT合併症WG. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会、2023年2月12日、名古屋
 - 8) 仲宗根秀樹：同種造血細胞移植後サイトメガロウイルス感染症・再活性化と移植後免疫再構築. 第122回日本皮膚科学会総会 指定演題、2023年5月4日、横浜
 - 9) 松岡あかり、河村匡捷、吉野 望、吉村一樹、木村俊一、石川拓斗、米野友啓、中村侑平、川村俊人、竹下絢子、三崎柚季子、後明晃由美、岡田陽介、玉置雅治、楠田待子、仲宗根秀樹、賀古真一、神田善伸：パーキットリンパ腫に対する抗がん剤髄腔内投与後にみられた髄膜炎と神経障害. 第19回日本血液学会関東甲信越地方会、2023年7月15日、山梨
 - 10) Hideki Nakasone : Prophylactic or Preemptive Tyrosine Kinase Inhibitors after Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia. 第13回JSH国際シンポジウム、2023年7月22日、つくば
 - 11) 川村俊人、玉置雅治、小沼貴晶、鬼塚真仁、堺田恵美子、林 裕美、土岐典子、小澤幸泰、澤正史、荒 隆英、福田隆浩、一戸辰夫、熱田由子、神田善伸、薬師神公和、諫田淳也、仲宗根秀樹：移植前呼吸機能低下を伴うHLA適合同種造血細胞移植における至適ドナーソースの検討. 第85回日本血液学会学術集会、2023年10月13日-15日、東京
 - 12) 岡田陽介、木村文彦、栗田尚樹、高橋寛行、島津 裕、水野昌平、内田直之、片岡圭亮、平本

展大、太田秀一、賀古真一、塚田信弘、神田善伸、倉橋信悟、土岐典子、西川彰則、金 成元、半下石明、諫田淳也、福田隆浩、熱田由子、近藤英生、河村浩二、仲宗根秀樹：アグレッシブ非ホジキンリンパ腫および多発性骨髄腫に対する自家移植後に起こる血小板生着遅延の影響。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月13日、東京

- 13) Okada Y, Nakasone H, Kawamura S, Takano K, Yoshimura K, Tamaki M, Matsuoka A, Ishikawa T, Meno T, Nakamura Y, Kawamura M, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Kusuda M, Tanihara A, Kimura S, Kako S, Kanda Y.: Decision analysis for immediate HCT vs delayed HCT after ruxolitinib failure for transplant candidates with primary myelofibrosis. 第85回日本血液学会学術集会、2023年10月13日、東京
- 14) 玉置雅治、赤星 佑、岡田陽介、内田直之、田中正嗣、土岐典子、澤 正史、丸山ゆみ子、上田恭典、宮腰重三郎、片山雄太、河北敏郎、木村貴文、鬼塚真仁、福田隆浩、熱田由子、柳沢龍、薬師神公和、諫田淳也、仲宗根秀樹：臍帯血移植とfemale-to-male骨髄移植における予後の比較検討。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月13日、東京
- 15) 赤星 佑、多田雄真、堺田恵美子、楠田待子、土岐典子、内田直之、福田隆浩、田中正嗣、澤正史、片山雄太、松岡賢市、小澤幸泰、鬼塚真仁、諫田淳也、神田善伸、熱田由子、仲宗根秀樹：高齢者移植における至適な前処置強度選択のためのスコアリングシステム。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月14日、東京
- 16) 赤星 佑、仲宗根秀樹、竹中克斗、山崎 聡、中村桃子、土岐典子、田中正嗣、小澤幸泰、内田直之、荒 隆英、中前博久、太田秀一、鬼塚真仁、矢野真吾、田中淳司、福田隆浩、神田善伸、熱田由子、賀古真一、柳田正光、新井康之：CMV再活性化が移植後急性白血病再発に与える影響。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月14日、東京
- 17) 賀古真一、藤原慎一郎、中村侑平、河村匡捷、川村俊人、竹下絢子、吉野 望、吉村一樹、三崎柚季子、松見信平、後明晃由美、玉置雅治、楠田待子、木村俊一、大山貴司、小山竣介、村橋 類、中島広大、兵頭和樹、戸田由美子、伊藤祥子、皆方大佑、森田 薫、蘆澤正弘、山本千裕、畑野かおる、佐藤一也、大嶺 謙、仲宗根秀樹、神田善伸：標準リスク造血器疾患に対する低

用量アレムツズマブを用いたHLA不適合ハプロアイデンティカル移植。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月14日、東京

- 18) 三崎柚季子、玉置雅治、柳沢 龍、土岐典子、福田隆浩、内田直之、田中正嗣、小澤幸泰、澤正史、荒 隆英、諫田淳也、熱田由子、神田善伸、仲宗根秀樹：移植前肝臓合併症患者における同種移植の予後と合併症。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月14日、東京
- 19) 松岡あかり、木村俊一、河村匡捷、吉野望、佐伯将城、宇賀田裕介、赤羽佳子、石川拓斗、米野友啓、中村侑平、川村俊人、竹下絢子、三崎柚季子、吉村一樹、後明晃由美、岡田陽介、玉置雅治、楠田待子、仲宗根秀樹、白井克幸、賀古真一、神田善伸：皮下植え込み型除細動器が留置された同種造血幹細胞移植患者に対する全身放射線照射実施時の管理。第85回日本血液学会学術集会、2023年10月14日、東京
- 20) Nakasone H.: Sex-mismatched hematopoietic cell transplantation and evidence of allogeneic response in GVHD and GVL effect. 第85回日本血液学会学術集会、2023年10月15日、東京

<海外学会>

- 1) Tamaki M, Akahoshi Y, Okada Y, Uchida N, Tanaka M, Doki N, Sawa M, Maruyama Y, Ueda Y, Miyakoshi S, Katayama Y, Kawakita T, Kimura T, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Yanagisawa R, Yakushijin K, Kanda J, Nakasone H: Unrelated female-to-male bone marrow transplantation would be preferred over cord blood transplantation in male recipients. EHA2023, June 8-15, 2023, Frankfurt
- 2) Misaki Y, Tamaki M, Yanagisawa R, Doki N, Fukuda T, Uchida N, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Ara T, Kanda J, Atsuta Y, Kanda Y, Nakasone H: The prognosis and complications of patients with pre-transplant liver dysfunction. EHA2023, June 8-15, 2023, Frankfurt
- 3) Kawamura S, Tamaki M, Konuma T, Onizuka M, Sakaida E, Hayashi H, Doki N, Nishida T, Sawa M, Ohigashi H, Fukuda T, Ishikawa J, Matsuoka K, Kawakita T, Tanaka M, Ishimaru F, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Yakushijin K, Kanda J, Nakasone H. The Comparison between BM and PBSC for the Patients with Pre-Transplant Pulmonary Dysfunction in HLA-Matched Allo-HCT: Subgroup Analysis Exploring the Impact

Based on HCT Factors. 65th ASH, Dec 10, 2023, San Diego

【著者・総説】／【その他】

学会招聘講演、著書・総説等は紙面の関係で省略いたします。

(医学部年報に掲載予定です。)

■ リウマチ膠原病科

【原著論文】

- 1) Nakamura J, Nagashima T, Yazawa H, Kokuzawa A, Sato K: Perihepatitis as an initial manifestation of systemic lupus erythematosus. Intern Med.63: 739-741, 2024
- 2) Nagashima T, Yabe H, Ogishi T, Kobashigawa T. Diffuse alveolar hemorrhage caused by disseminated cryptococcosis in a patient with systemic lupus erythematosus. Cureus.16:e53831, 2024

【学会発表】

- 1) 尾岸俊明、矢部寛樹、小橋川剛、長嶋孝夫：播種性クリプトコッカス症により肺胞出血をきたした全身性エリテマトーデスの1例. 第121回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024、2024年4月13日、東京
- 2) 矢部寛樹、宮谷博幸、小橋川剛、長嶋孝夫：右鎖骨周囲に著明な石灰沈着と軟部組織腫脹を認めた潰瘍性大腸炎関連脊椎関節炎の1例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024年4月18-20日、神戸
- 3) 小橋川剛、南家由紀：ベーチェット病疑いとして紹介されてきた天疱瘡および類天疱瘡の各1例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024年4月18-20日、神戸
- 4) 小橋川剛：新型コロナワクチン接種後にSLEを発症した1例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024年4月18-20日、神戸

■ 小児科

【原著論文】

- 1) Sugawara D, Makita E, Matsuura M, Sato H, Kuwata T, Ichihashi K: Prepregnancy body mass index and glycated albumin in the third trimester may predict infant complications in gestational diabetes mellitus: a retrospective

cohort study. Diabetol Int. 14: 280-287, 2023

- 2) 菅原大輔, 松浦未紗, 牧田英士：特発性低身長児における血清亜鉛値と体格、栄養指標との関連について. 亜鉛栄養治療 14 (1): 30-35, 2023
- 3) 菅原大輔：【成長曲線を書こう】成長曲線はすぐれた検査法! 心理社会的問題. 小児科診療 86 (11): 1387-1391, 2023
- 4) 糸永宇慧, 柳田紀之, 西野 誠, 佐藤さくら, 大松華子, 大竹直人, 牧田英士, 福家辰樹, 三浦太郎, 千代反田雅子, 鈴木 誠, 真部哲治, 小池由美, 二村昌樹, 長尾みづほ, 緒方美佳, 高山良子, 杉山晃子, 片岡葉子, 石氏陽三, 益田浩司, 田中暁生, 中原剛士, 室田浩之, 佐伯秀久, 加藤則人, 海老澤元宏：アトピー性皮膚炎の長期コントロール指標Recap of atopic eczema (RECAP) の日本語版の作成と言語検証. アレルギー 72 (10): 1240-1247, 2023

【学会発表】

- 1) 岩井恵太, 牧田英士, 菅原大輔, 松浦未紗, 野中航仁, 平久保由香, 細野茂春：学校健診で成長率低下を指摘されなかった委縮性甲状腺炎の1例. 第193回日本小児科学会さいたま地方会 2023年12月3日 さいたま市
- 2) 子川ひかる, 菅原大輔, 牧田英士, 野中航仁, 平久保由香, 細野茂春：起立性調節障害の精査で無痛性甲状腺炎の診断に至った1例. 第194回日本小児科学会さいたま地方会 2024年2月11日 川口市

【著者 総説】

なし

【その他】

- 1) 菅原大輔：マニュアルペンとの違い～電動式デバイスとの違いも合わせて～. 千葉埼玉小児内分泌若手医師の会 2024年3月9日 東京
- 2) 菅原大輔：日常診療で知っておいて損はない低身長の知識～学校検診も含めて～. 桶川北本伊奈地区医師会学術講演会 2024年3月22日 北本市
- 3) 野中航仁：小児の腎尿路系. 日本超音波医学会超音波診断講習会(小児) 2024年1月27日 東京都
- 4) 牧田英士：「食物アレルギーとアトピー性皮膚炎について」. 令和5年度さいたま市薬剤師会 学校薬剤師資質向上研修会 2024年3月18日 Web配信

■ 放射線科

前回未掲載～2024年3月

【原著論文】

- 1) Mizushima I, Morikage N, Ito E, Kasashima F, Matsumoto Y, Sawa N, Yoshifuji H, Saeki T, Shintani-Domoto Y, Shimada S, Takayama T, Amiya E, Ozawa M, Takahashi M, Fujinaga Y, Katsumata T, Obitsu Y, Izawa A, Kanno H, Oyama-Manabe N, Ishizaka N, Nagasawa T, Takahashi H, Ohki T, Kawano M, Kasashima S : Joint Working Group from the Japanese Circulation Society and the Ministry of Health, Labour and Welfare Study Group : Validation of the Diagnostic Criteria for IgG4-Related Periaortitis/Periarteritis and Retroperitoneal Fibrosis (IgG4PA/RPF) 2018, and Proposal of a Revised 2023 Version for IgG4-Related Cardiovascular/Retroperitoneal Disease. *Circ J*. 2024 Mar 16. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0026. Online ahead of print. PMID: 38494710
- 2) Fukuchi T, Oyama-Manabe N, Sugawara H. : Fukuchi-Manabe Score for Infection Control Measures During the Very Early COVID-19 Pandemic Period When Access to Reverse Transcription-Polymerase Chain Reaction Testing Was Poor in Japan: A Single-Center Observational Prospective Cohort Study *Cureus*. 2024 Feb 23;16 (2):e54748. doi: 10.7759/cureus.54748. eCollection 2024 Feb. PMID: 38523950.
- 3) Manabe O, Jinnouchi H, Aikawa T, Shirai K, Oyama-Manabe N: Ischaemia in the right ventricle and left ventricle, and rheumatoid myalgia incidentally found in a lung cancer patient treated with immune checkpoint inhibitors: a case report with 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography imaging. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging*. 2023 Dec 21;25 (1):e58. doi: 10.1093/ehjci/jead244. PMID: 37768128 No abstract available.
- 4) Miura S, Okizaki A, Manabe O, Miyazaki C, Yamashita T : Serial Quantitative Assessment of Myocardial Blood Flow With 13N-Ammonia Positron Emission Tomography in a Symptomatic Patient With Tachycardia-Induced Cardiomyopathy. *Circ Heart Fail*. 2023 Nov;16 (11):e010406.
- 5) Aikawa T, Manabe O, Ibe T, Oyama-Manabe N : Serial assessment of cardiac involvement in sarcoidosis by delayed 18F-fluorodeoxyglucose PET/CT. *J Nucl Cardiol*. 2023 Oct;30 (5):2225-2228.
- 6) Saitou T, Aikawa T, Manabe O, Nagase A, Kudo T, Oyama-Manabe N : Comparison of 1-h with 3-h planar 99mTc-pyrophosphate scintigraphy in patients with suspected transthyretin cardiac amyloidosis using SPECT as a reference standard. *Ann Nucl Med*. 2023 Feb;37 (2):99-107.
- 7) Akahane K, Hatanaka S, Kawahara M, Endo M, Fukuda Y, Okada K, Ogawa K, Takahashi S, Nakamura M, Saito M, Oyama-Manabe N, Shirai K : Recurrence Pattern, Treatment Modalities, and Prognostic Factors After Definitive Chemoradiotherapy for Recurrent Esophageal Cancer, *J Gastrointest Cancer*. 2024 Jan 27. doi: 10.1007/s12029-024-01015-9. Online ahead of print. PMID: 38280175
- 8) Oyama-Manabe N, Oda S, Ohta Y, Takagi H, Kitagawa K, Jinzaki M : Myocardial late enhancement and extracellular volume with single-energy, dual-energy, and photon-counting computed tomography, *J Cardiovasc Comput Tomogr*. 2024 Jan-Feb;18 (1):3-10. doi: 10.1016/j.jcct.2023.12.006. Epub 2024 Jan 12. PMID: 38218665 Free article. Review.
- 9) Ohno Y, Aoki T, Endo M, Koyama H, Moriya H, Okada F, Higashino T, Sato H, Oyama-Manabe N, Haraguchi T, Arakita K, Aoyagi K, Ikeda Y, Kaminaga S, Taniguchi A, Sugihara N : Machine learning-based computer-aided simple triage (CAST) for COVID-19 pneumonia as compared with triage by board-certified chest radiologists, *Jpn J Radiol*. 2024 Mar;42 (3):276-290. doi: 10.1007/s11604-023-01495-y. Epub 2023 Oct 20. PMID: 37861955 Free PMC article.
- 10) Akahane K, Hatanaka S, Kawahara M, Endo M, Fukuda Y, Okada K, Ogawa K, Takahashi S, Nakamura M, Saito M, Oyama-Manabe N, Shirai K : Recurrence Pattern, Treatment Modalities, and Prognostic Factors After Definitive Chemoradiotherapy for Recurrent Esophageal Cancer. *J Gastrointest Cancer*. 2024. Online ahead of print.
- 11) 真鍋 治、相川忠夫、大石茉耶、高橋慶子、高橋弘昌、杉崎健一、高橋秀紀、真鍋徳子：心臓サルコイドーシス診療におけるFDG PETの役割, 日

サ会誌 2023; 43: 35-38

- 12) 真鍋徳子、佐野ひろみ、真鍋治：心臓MRIでの心臓サルコイドーシス評価. 日サ会誌 2023; 43: 32-34

【学会発表】

- 1) 真鍋徳子：Whole-body Assessment of Vasculitis and Its Complications Using CT, FDG-PET, and MRI. RSNA2023（第109回北米放射線学会）2023年11月26-30日 シカゴ
- 2) 真鍋徳子：One Beat Ahead: Myocardial Ischemia Diagnosis with Dynamic CT Perfusion. Asian Oceanian Congress of Radiology 2024 2024年3月24-25日 台湾
- 3) 真鍋治、真鍋徳子、高橋慶子、相川忠夫：The role of imaging in cardio-oncology: detecting, preventing, and managing cardiovascular disease in cancer patients and survivors. 第109回米国放射線学会 2023年11月26-30日 シカゴ
- 4) 白井克幸、赤羽佳子、川原正寛、高橋侑大、遠藤雅士、福田友紀子、岡田光平、小川一成、高橋聡、中村道子：3期肺癌に対する化学放射線療法の成績. 3DCRTとIMRTの比較 第64回日本肺癌学会学術集会 2023年11月2-4日 幕張
- 5) 白井克幸、赤羽佳子、川原正寛、高橋侑大、遠藤雅士、福田友紀子、岡田光平、小川一成、高橋聡、中村道子：オリゴ骨転移に対する定位放射線治療に対する初期治療成績. 日本放射線腫瘍学会第36回学術大会 2023年12月1日 横浜
- 6) 白井克幸：進行期肺癌 放射線治療の役割 WOW. 呼吸器領域の進歩 2024年1月11日 WEB
- 7) 真鍋治：代謝を考慮に入れた心疾患の画像診断. さいたま循環器画像診断セミナー 2024年2月5日 WEB
- 8) 中田裕香理、大河内知久、田中修：Zinner症候群（腎欠損症を合併した精嚢腺嚢胞）の4例：画像診断的検討. 第61回埼玉県医学会総会 2024年2月25日 埼玉
- 9) 高橋侑大、大鹿理貴、山田恵里佳、岡崎哲照、橘英伸：CT用ゲル線量計によるエレクトラRTシステムの三次元的なアイソセンターの精度検証. 第36回日本放射線腫瘍学会学術大会 2023年11月30日 神奈川

【その他】

- 1) 真鍋徳子：10分でわかるフォトンカウンティングCT X 循環器イメージング. Radiology Seminar F in RSNA2023 2023年11月27日 シカゴ

- 2) 真鍋徳子：心臓MRIの最前線：循環器診療における新たな視点. 神戸大学医学部大学院 2024年1月19日 神戸
- 3) 真鍋徳子：心不全の病態に画像で迫る！. 第1回駿河台放射線研究会 2024年1月30日 東京
- 4) 真鍋徳子：心臓を診る: 心臓MRIで病態を捉え、診断へと導く. 第56回SAITAMA MRI Conference特別講演会 2024年2月3日 さいたま市
- 5) 真鍋徳子：心臓の動きがみえる：心筋と血流動態の可視化へ「Visualizing the Beat: Unveiling the Dynamics of the Heart and Blood Flow」. 第88回日本循環器学会ランチョンセミナー 2024年3月8日 神戸
- 6) 真鍋徳子：心筋症の答えはCMRにあり！. 第88回日本循環器学会ランチョンセミナー 2024年3月9日 神戸
- 7) 真鍋徳子：心臓の多面的アプローチ：可視化して定量化する. Canon Advanced Imaging Seminar 2024 2024年3月12日 東京
- 8) 真鍋徳子：アミロイドーシスの画像診断とはセッションテーマ「心臓MRI」、心アミロイドーシス画像診断セミナー 2024年3月23日 品川
- 9) 真鍋徳子：心臓領域における画像診断の情報提供 第7回茨城県心臓画像研究会 2024年3月23日 茨城
- 10) 白井克幸：近年の放射線治療の発展. 令和4年度 第12回埼玉県がん診療連携協議会 合同カンサード 2023年3月25日 Web
- 11) 白井克幸：オリゴ骨転移に対する定位放射線治療. 第2回骨転移ボード 自治医科大学附属病院 2023年6月22日 栃木
- 12) 白井克幸：15. 治療、1 総論：X線（高精度照射技術）. JCRオンデマンドレクチャー 2023年8月3日 web
- 13) 西川秀仁、真鍋徳子：左室のoozing ruptureにspectral解析が有用であった症例 画論31th The Best Image（Aquilion One部門 心血管）2023年12月17日 東京
- 14) 西川秀仁、真鍋徳子：特集 心臓イメージング 2024 左室のoozing rupturにspectral解析が有用であった症例. 映像情報Medical 3: 19-23 2024.
- 15) 綾部佑介、濱本耕平：分枝肺管型IPMN. 画論31th The Best Image（1.5T以下部門最優秀賞）2023年12月17日 東京
- 16) 大海暢克、濱本耕平：内頸動脈狭窄. 画論31th The Best Image（1.5T以下脳神経部門テクニカル賞）2023年12月17日 東京
- 17) 池田欣正、濱本耕平：左内頸動脈解離. 画論31th

The Best Image (Clinical Update賞) 2023年12月17日 東京

- 18) 大海暢克：JMUS-MRA式ノ型「T1 trajectory multi planar voxel non subtraction FBI」. 第8回関東Pianissimo教室 2024年2月29日 埼玉
- 19) 綾部佑介：MRCP終ノ型「JMUS-MRCP」. 第8回関東Pianissimo教室 2024年2月29日 埼玉

【著書総説】

- 1) 真鍋徳子：循環器診療に大きく寄与する心臓CT/MRI. 監修・校閲 日獨医放Vol.67 2023
- 2) 真鍋徳子：症例から学ぶ心臓血管放射線診断 特発性冠動脈解離. 画像診断 44 (1) : 28-29 2024
- 3) 真鍋徳子：Common Diseaseを極める 11. 心血管虚血性心疾患. 臨床放射線Vol.68 No12: 1227-1231. 2023
- 4) 真鍋徳子：拡張型心筋症様病態における鑑別診断のポイントと重症度評価 心筋症Multimodalityを用いた診断・評価のすべて、日本医事新報出版社 137-147. 2023
- 5) 真鍋徳子、相川忠夫：Multimodalityを用いた診断・評価のすべて、心筋症 日本医事新報社 2024、137-147
- 6) 白井克幸：9章 悪性リンパ腫・造血器. やさしくわかる放射線治療学 改訂第2版 2023年
- 7) 福田友紀子、白井克幸：第7章 各領域の治療転移性腫瘍. 総論（オリゴ転移含む）がん・放射線療法 改訂第8版 2023年
- 8) 遠藤雅士、白井克幸：第7章 各領域の治療 頭頸部腫瘍 聴器腫瘍. がん・放射線療法 改訂第8版 2023年
- 9) 濱本耕平、真鍋徳子、大石茉耶、山本彩季、渡辺友里子、小島綜一郎、森壑：肺動静脈奇形に対する塞栓術のUp to Date. 映像情報Medical 55 (7): 9-15, 2023.
- 10) 高橋侑大：放射線医療技術学叢書 (40)「実践IGRT」、日本放射線技術学会 2023.
- and Amino Acid Doses in Critically Ill Patients: A Retrospective Cohort Study Using a Medical Claims Database. Nutrients. 2023 Dec 24;16 (1):57.
- 3) Tanaka D, Amagasa S, Kikuchi N, Sasaki R, Uematsu S, Tsuji S, Kubota M, Nakagawa S : Clinical Utility and Patient Distribution of Brief Resolved Unexplained Event Classification for Apparent Life-Threatening Events. Pediatr Emerg Care. 2023 Jul 1;39 (7):507-510.
- 4) Ishihara T, Sasaki R, Enomoto Y, Amagasa S, Yasuda M, Ohnishi S : Changes in pre- and in-hospital management and outcomes among children with out-of-hospital cardiac arrest between 2012 and 2017 in Kanto, Japan. Sci Rep. 2023 Jun 21;13 (1):10092.
- 5) Utsumi S, Ohki S, Ueda T, Amagasa S, Nishikimi M, Shime N : Association between hospital volume and in-hospital mortality in pediatric severe traumatic brain injury: a nationwide retrospective observational study in Japan. J Neurosurg Pediatr. 2023 Dec 8;33 (2):137-141.
- 6) Yumoto T, Kuribara T, Yamada K, Sato T, Koba S, Tetsuhara K, Kashiura M, Sakuraya M : Clinical parameter-guided initial resuscitation in adult patients with septic shock: A systematic review and network meta-analysis. Acute Med Surg. 2023 Dec 26;10 (1):e914.
- 7) Kishihara Y, Kashiura M, Yasuda H, Kitamura N, Nomura T, Tagami T, Yasunaga H, Aso S, Takeda M, Moriya T; SOS-KANTO 2017 Study Group. : Association between institutional volume of out-of-hospital cardiac arrest cases and short term outcomes. Am J Emerg Med. 2024 Jan;75:65-71.
- 8) Utsumi S, Amagasa S, Moriwaki T, Uematsu S : Oral analgesic for musculoskeletal injuries in children: A systematic review and network meta-analysis. Acad Emerg Med. 2024 Jan;31 (1):61-70.
- 9) Oishi T, Kashiura M, Yasuda H, Kishihara Y, Tominaga K, Tamura H, Moriya T : Naphazoline intoxication managed with minimally invasive cardiac output monitoring. Am J Emerg Med. 2024 Mar;77:233.e5-233.e7.
- 10) Amagasa S, Iwamoto S, Kashiura M, Yasuda H, Kishihara Y, Uematsu S : Early Versus Late Advanced Airway Management for Pediatric

■ 救急科

【原著論文】

- 1) 箕輪啓太、野田頭達也、吉村有矢、近藤英史、後村朋美、森 仁志：ワルファリンによる抗凝固薬関連腎症の1例. 日本救急医学会雑誌 34巻6号 : 217-222、2023
- 2) Yasuda H, Horikoshi Y, Kamoshita S, Kuroda A, Moriya T : Associations between In-Hospital Mortality and Prescribed Parenteral Energy

Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest. Ann Emerg Med. 2024 Mar;83 (3):185-195.

- 11) Taira H, Kashiura M, Moriya T : Thyroidectomy: A complication of cricothyroidotomy. Acute Med Surg. 2024 Mar 13;11 (1):e937.

【学会発表】

- 1) 守谷 俊、天笠俊介、柏浦正広：埼玉県 AI 救急相談からみた頭部外傷案件の特徴一般市民への役割. 第29回日本脳神経外科救急学会、2024年2月3日、東京
- 2) 小松睦実、森 仁志、平良 悠、岸原悠貴、富永経一郎、田村洋行、柏浦正広、守谷 俊：非外傷性十二指腸壁内血腫に対して保存的加療で軽快した1例. 第74回日本救急医学会関東地方会学術集会、2024年2月17日、さいたま市
- 3) 中島千里、柏浦正広、田村洋行、富永経一郎、岸原悠貴、平良 悠、森 仁志、朝倉峻介、小松睦実、白岡裕毅、小池倫生、守谷 俊：非外傷性下肢出血を契機に診断に至った自己免疫性後天性凝固第 XIII 因子欠乏症の一例. 第74回日本救急医学会関東地方会学術集会、2024年2月17日、さいたま市
- 4) 竹原英駿、森 仁志、柏浦正広、安田英人、守谷 俊：PLASMICスコアを用いて早期診断、治療を行った血栓性血小板減少性紫斑病の一例. 第61回埼玉県医学会総会、2024年2月25日、さいたま市
- 5) 坪井 謙、守谷 俊、田中喜展、松本建志、百村伸一：Saitama Stroke Networkでの救急搬送された脳主幹動脈閉塞を疑う患者の病院前脳卒中観察項目の後方視的検討. 第49回日本脳卒中学会学術集会、2024年3月8日、横浜
- 6) 天笠俊介、岩元晋太郎、柏浦正広、安田英人、岸原悠貴、植松悟子、守谷 俊：院外心停止における早期高度気道確保の有効性. 第51回日本集中治療医学会学術集会 優秀セッション 7 (AWS)、2024年3月15日、札幌市
- 7) 松井俊之、森 仁志、鈴木伶奈、柏浦正広、古市昌之：小腸穿孔後の縦隔気腫の診断に難渋し診断が遅れた急性食道壊死の一例. 第51回日本集中治療医学会学術集会、2024年3月16日、札幌市

【著者・総説】

- 1) 安田英人、柏浦正広、新里祐太郎、田村洋行、富永経一郎、岸原悠貴、平良 悠、大石高稔、小池 翠、伊勢義仁、酒本健汰、中島千里、田戸雅宏、波多野裕理、小澤継史、崎原永立、横田

美帆、桑田知之、谷口貴哉、澤 允洋、高橋英里、守谷 俊：ER虎の巻 ピットフォールから学ぶ救急診療の要. 中外医学社、2023年12月

- 2) 安田英人：消化器 経腸栄養剤. ER・ICU 300のくすり pp.268-275 編集 司馬伸朗、中外医学社、2023年12月
- 3) 崎原永立、安田英人：中心性肥満. BMI over 30 肥満患者のER・ICU pp.224-227 編集 清水敬樹、診断と治療社、2023年12月
- 4) 守谷 俊：自治医科大さいたまドクターカーは今年も急病人の命を守ります さいたま市内を東へ西へ. 大宮医師会報 第814号 pp.23-25、2024年1月
- 5) 森 仁志、吉村有矢、十倉知久、野田頭達也、今明秀：ジスチグミン5mgの長期投与で発症した致死的コリン作動性クリーゼの1例. 中毒研究37巻1号 pp.29-35、2024年3月

【その他】

- 1) 柏浦正広：ER/ICUにおけるてんかんマネジメント. ユーシービージャパン 救急を診ている先生方が知っておきたい～てんかん治療～、2023年12月21日、WEB開催
- 2) 守谷 俊：災害時における意識障害患者の病院避難はどの程度可能なのか. 第4回藤田医科大学ばんだね病院オンライン救急セミナー、2023年12月22日、WEB開催
- 3) 守谷 俊：てんかん重積状態の早期診断と治療に向けたアプローチ. アルフレッサファーマ 救急領域におけるてんかん重積診療のアプローチ、2024年1月10日、東京
- 4) 守谷 俊：救急医療体制の理解と協力：岩槻区の住民と医療関係者の連携. 第一三共株式会社 脳卒中トータルケアセミナー、2024年2月5日、さいたま市
- 5) 守谷 俊：てんかん領域における診断と治療. エーザイ株式会社 MR研修会、2024年3月1日、さいたま市
- 6) 守谷 俊：暑熱環境と熱中症対策. 災害救援ボランティア講座 気候変動編第3期、2024年4月21日、東京

総合医学2

■ 一般・消化器外科

【原著論文】

- 1) Fukai S, Maeda S, Chikazawa K, Rikiyama T: Strangulated bowel obstruction caused by vaginal perforation due to vaginal cancer in a patient with chronic uterine prolapse. *BMJ Case Rep.* 16 (12): e255815, 2023
- 2) Chikatani K, Ishida H, Mori Y, Nakajima T, Ueki A, Akagi K, Takao A, Yamada M, Taniguchi F, Komori K, Sasaki K, Sudo T, Miyakura Y, Chino A, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y. Risk of metachronous colorectal cancer after colectomy for first colon cancer in Lynch syndrome: multicenter retrospective study in Japan. *Int J Clin Oncol.* 2023 Dec;28 (12):1633-1640.
- 3) Miyakura Y, Yamaguchi T, Lefor AK, Tamaki S, Takao A, Takao M, Mori Y, Chikatani K, Ishida H, Kono M, Takeuchi Y, Ishikawa H, Nagasaki T, Sasaki K, Matsubara T, Hirata K, Taniguchi F, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y. Clinical features and distribution of the APC variant in duodenal and ampullary polyps in patients with familial adenomatous polyposis: a multicenter retrospective cohort study in Japan. *Int J Clin Oncol.* 2024 Feb;29 (2):169-178.
- 4) Sasaki K, Kawai K, Nozawa H, Ishihara S, Ishida H, Ishibashi K, Mori Y, Shichijo S, Tani Y, Takeuchi Y, Chino A, Takao M, Fujiyoshi K, Matsubara T, Miyakura Y, Taniguchi F, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y. Risk of gastric adenoma and adenocarcinoma in patients with familial adenomatous polyposis in Japan: a nationwide multicenter study. *J Gastroenterol.* 2024 Mar;59 (3):187-194.
- 5) Chikatani K, Ishida H, Mori Y, Nakajima T, Ueki A, Akagi K, Takao A, Yamada M, Taniguchi F, Komori K, Sasaki K, Sudo T, Miyakura Y, Chino A, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y. Risk of metachronous colorectal cancer after surgical resection of index rectal cancer in Lynch syndrome: a multicenter retrospective study in Japan. *Surg Today.* 2024 Mar 19. doi: 10.1007/s00595-024-02815-z. Online ahead of print.
- 6) Saito M, Suzuki K, Tamaki S, Kimura Y, Abe

I, Endo Y, Watanabe F, Rikiyama T: Efficacy of ramucirumab and subsequent nivolumab therapy in patients with advanced gastric cancer: A retrospective study. *MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY.* 20 (3): 17, 2024

- 7) 加藤高晴、野田弘志、蓬原一茂、力山敏樹：腹痛を契機に発見され腹腔鏡下に同時手術を施行した右副腎神経節細胞腫と右卵巢成熟嚢胞奇形腫の一例. *日本内分泌外科学会雑誌*, 40 (4):262-266, 2023
- 8) 高山裕司、宮倉安幸、水澤由樹、田巻佐和子、初沢悠人、福井太郎、柿澤奈緒、力山敏樹：家族性大腸腺腫症に併存した下部進行直腸癌に対して術前化学放射線治療後に大腸全摘術を施行した3例. *日本大腸肛門病学会雑誌*, 77 (1):56-61, 2024

【学会発表】

- 1) 江口祐介、宮倉安幸、松澤夏未、田巻佐和子、市田晃佑、福井太郎、高山裕司、力山敏樹：当院の虫垂粘液腫瘍に対する腹腔鏡手術の遠隔成績. 第36回日本内視鏡外科学会総会、2023年12月7-9日、横浜、口演
- 2) 福井太郎、宮倉安幸、水澤由樹、松澤夏未、田巻佐和子、高山裕司、力山敏樹：横行結腸癌の部位別のリンパ節転移、再発形式より考える至適術式・リンパ節郭清. 第100回大腸癌研究会学術集会、2024年1月25-26日、東京、口演
- 3) 松澤夏未、宮倉安幸、田巻佐和子、福井太郎、高山裕司、力山敏樹：当院における下部直腸粘膜下層高度浸潤癌の短期及び中期治療成績の検討. 第100回大腸癌研究会学術集会、2024年1月25-26日、東京、口演
- 4) 武藤雄太、齊藤正昭、阿部 郁、市田晃佑、力山敏樹：当院における食道胃接合部腺癌の治療成績と治療戦略. 第96回日本胃癌学会総会、2024年2月28-1日、京都、口演
- 5) 武井稔弥、長崎瑛里、橋本 真、池田太郎：鈍的異物による腸閉塞に対して手術を施行したヤング・シンプソン症候群の1小児例. 第871回外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会）、2024年3月9日、東京、口演
- 6) 水澤由樹、深井翔太、野田弘志、市田晃佑、松澤夏未、阿部 郁、遠藤裕平、福井太郎、高山裕司、井上亨悦、武藤雄太、渡部文昭、宮倉安幸、力山敏樹：消化器外科術後正中創腹壁癒痕ヘルニアの危険因子解析. 第124回日本外科学会定期学術集会、2024年4月18-20日、愛知、口演
- 7) 福井太郎、宮倉安幸、松澤夏未、田巻佐和子、市

田晃佑、高山裕司、力山敏樹：Crohn病に対するリセット手術における Kono-S吻合の治療成績の検討。第124回日本外科学会定期学術集会、2024年4月18-20日、愛知、口演

- 8) 井上亨悦、遠藤裕平、渡部文昭、野田弘志、力山敏樹：右下肝静脈は S6・S7 境界のメルクマールとなり得るか？第124回日本外科学会定期学術集会、2024年4月18-20日、愛知、口演
- 9) 遠藤裕平、野田弘志、堀義樹、兼光梨奈、相澤栄俊、井上亨悦、渡部文昭、加藤高晴、力山敏樹：臍頭十二指腸切除術に及ぼすmesopancreas厚の検討。第124回日本外科学会定期学術集会、2024年4月18-20日、愛知、口演

【その他】

- 1) 力山敏樹：リキッドバイオペシー女性外科医の育成前向き臨床試験-当科12年間の取り組み-。北海道周術期・栄養セミナー、2024年1月26日、北海道、講演
- 2) 力山敏樹：現代医療における大学の役割 地域医療の現状 医師を志すにあたって。令和5年度宮城県仙台第二高等学校 医進会講演、2024年1月31日、宮城、講演
- 3) 力山敏樹：肝胆膵外科領域。第4回埼玉県消化器外科シリーズセミナー、2024年2月28日、さいたま、講演
- 4) 渡部文昭：胆道癌に対する術前治療。第22回 TKB (Tokyo Bay-area Clinical Oncology Group)、2024年3月15日、東京、講演

■ 心臓血管外科

【学会発表 国内】

- 1) 徳永滋士、森田英幹、藤井健人、山内豪人、白杉岳洋、狩野実希、野村耕司：狭小左房を伴う先天性僧帽弁狭窄症に対する再々僧帽弁置換術。第25回成人先天性心疾患学会総会・学術集会、2024年1月6日-8日、東京
- 2) 和田陽之介、中野光規、橋本和憲、白石 学、岡村 誉、木村直行、山口敦司：当院における急性肺動脈血栓塞栓症に対する外科的治療の手術成績の検討。第54回日本心臓血管外科学会学術総会、2024年2月22日-24日、浜松
- 3) 清水寿和、本宮久之、鵜垣伸也、野村耕司：完全房室中隔欠損術後の両側房室弁不全症に対して左側房室弁置換術及び右側房室弁尖延長術を行った一例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。

- 4) 佐野太一、安達晃一、田島 泰、玉井宏一、新井大輝：AFMRに対して、僧帽弁形成術を実施して良好な経過を得た一例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 5) 八木萌香、白石 学、岩崎里衣、小和田実、山田亮太郎、中村宜由、住吉 力、中野光規、和田陽之介、橋本和憲、岡村誉、木村直行、山口敦司：右鎖骨下動脈起始異常を伴う急性大動脈解離 Stanford A型の手術経験。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 6) 新井大輝、佐野太一、玉井宏一、田島 泰、安達晃一：急性大動脈解離術後に多尿・高Na血症を認め尿崩症と診断した一例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 7) 蓮井英成、野村陽平、北田悠一郎、秋吉 慧、安達秀雄：急性B型大動脈解離破裂に対する待機的 TEVARを実施しえた一例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 8) 岩崎里衣、小和田実、八木萌香、山田亮太郎、中村宜由、住吉 力、和田陽之介、中野光規、橋本和憲、白石学、岡村誉、木村直行、山口敦司：部分弓部置換、腋窩-腋窩動脈バイパス後の仮性瘤に対して再開胸手術を行った1例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 9) 大嶋理香、佐藤哲也、鳥飼哲世、河原拓也、三好康介、伊藤 智：寒冷疑集素陽性患者の弓部大動脈瘤に対しphysician-modified TEVARを施行した例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。
- 10) 山田伊織、安達晃一、田島 泰、玉井宏一、佐野太一、新井大輝：心タンポナーデで発症した多発性悪性心膜中皮腫の一例。第194回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、栃木、2024年3月16日。

【その他】

■研究会

- 1) 岩崎里衣：セッション1 テーマ【術後の浸潤】大動脈基部膿瘍形成を伴う人工弁感染性心内膜炎に対して、外科的介入を行った2症例について。第40回埼玉県外科集談会、さいたま、2023年11月25日。
- 2) 玉井宏一、新井大輝、佐野太一、田島 泰、安達晃一：低侵襲手術を目指した当科の取り組み。第26回OTAC研究会、2024年2月16日、横浜

【著書・総説】

- 1) 木村直行、安達秀雄：胸部大動脈瘤。今日の臨床

サポート, エルゼビア・ジャパン株式会社, 2023年改訂版

- 2) 木村直行: 大動脈瘤-大動脈解離. イヤーノート TOPICS 2023. メディックメディア株式会社, 2023年
- 3) 堀義樹, 木村直行, 山本貴裕, 山内豪人, 堀大治郎, 白石 学, 山口敦司: 広範囲大動脈置換術を施行した右側大動脈弓合併non-A non-B型大動脈解離. 南江堂 胸部外科, 第76巻, 第11号, 2023年

■ 整形外科

【学会発表】

- 1) 望月貴夫、池上政周、秋山達: 遺伝子変異プロファイリングに基づく進行期軟部肉腫の予後予測と最適な二次化学療法の薬剤選択法の検討. 第7回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 (JSTAR)、2024年2月9-10日、名古屋市
- 2) 秋山達: 腫瘍整形外科医から見た後腹膜肉腫治療における診療連携. 第7回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 (JSTAR)、2024年2月9-10日、名古屋市
- 3) 鈴木貴大、福島 崇、秋山 達、森 大典、小俣康徳、齋藤 琢、田中 栄、竹下克志: 骨折治癒過程に対するpolyamineの作用の検討. 第38回日本整形外科学会基礎学術集会、2023年10月19-20日、つくば市

【著者 総説】

- 1) 秋山達: 【わかればみえる! 脊椎手術術野へのアプローチ】仙骨S3離断に必要な解剖 (解説). 脊椎脊髓ジャーナル (0914-4412) 36巻10号 Page729-733 (2023.11)

■ 泌尿器科

2023年12月～2024年4月

【原著論文 (英論文および和論文)】

- 1) Kato T, Nakano Y, Hongo F, Katano H, Miyagawa T, Ueda K, Azuma H, Nozawa M, Hinata N, Hori J, Otoshi T, Shimizu N, Aizawa M, Osada S, Matsui A, Oya M, Eto M, Tomita Y, Shinohara N, Uemura H. Real-world outcomes of avelumab plus axitinib as first-line therapy in patients with advanced renal cell carcinoma in Japan: A multicenter, retrospective, observational study (J-DART). Int

J Urol. 2023 Dec 18. doi: 10.1111/iju.15345. Online ahead of print.

- 2) Washino S, Mayumi S, Saito K, Yazaki K, Nakamura Y, Miyagawa T. A novel anterior approach that involves Retzius space development between the umbilical ligaments is associated with a lower incidence of postoperative inguinal hernia in robotic radical prostatectomy. Prostate Int. 2024 Mar;12 (1):52-56. doi: 10.1016/j.prnil.2023.12.003. Epub 2024 Jan 6.
- 3) Washino S, Saito K, Nakamura Y, Miyagawa T. Retrotrigonal Layer Dissection from a Posterior Approach Enables Bladder Neck Preservation in Robot-Assisted Radical Prostatectomy. J Clin Med. 2024 Feb 22;13 (5):1258. doi: 10.3390/jcm13051258.

【学会発表】

- 1) 宮川友明、齊藤公俊: daVinci Siによるロボット支援腹腔鏡下腎摘除術—腹腔鏡手術との比較—、第36回日本内視鏡外科学会学術総会ワークショップ 15、2023年12月7日～9日、横浜
- 2) 嘉指公輔、宮川友明、藤澤直輝、竹内堇、水戸康平、矢崎海、齊藤公俊、鷺野聡: 現代社会における医師の産後パパ育休取得の経験、第93回日本泌尿器科学会埼玉地方会、2024年2月10日、埼玉県越谷市
- 3) 宮川友明、鷺野聡、齊藤公俊、藤澤直輝、竹内堇、嘉指公輔、水戸康平、矢崎海: 後腹膜アプローチによるロボット支援腹腔鏡下尿管全摘除術の初期経験、第16回日本ロボット外科学会学術集会、2024年2月10日、11日、鳥取県米子市
- 4) 宮川友明、鷺野聡、齊藤公俊、藤澤直輝、竹内堇、嘉指公輔、水戸康平、矢崎海: 下大静脈腫瘍栓を伴う左腎細胞癌に対しロボット支援左腎摘除・腫瘍栓摘除術を施行し得た1例、第128回日本泌尿器科学会茨城地方会、2024年2月17日、茨城県龍ケ崎市
- 5) 鷺野聡、齊藤公俊、矢崎海、水戸康平、嘉指公輔、宮川友明: RARPにおける新しい膀胱前腔展開方法—良好な尿禁制と鼠径ヘルニアの低減—、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜
- 6) 水戸康平、鷺野聡、藤澤直輝、竹内堇、嘉指公輔、矢崎海、中村勇貴、齊藤公俊、宮川友明: ロボット支援前立腺全摘除術におけるnovel anterior approachのconventional approachと比較した術後尿失禁の優位性の検討、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜

- 7) 齊藤公俊、鷺野聡、藤澤直輝、竹内董、嘉指公輔、水戸康平、矢崎海、宮川友明：パネルディスカッション4：当院で行っているICUDの工夫と経験した有害事象、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜
- 8) 永本将一、竹下英毅、鷺野聡、大島将、城武卓、井上雅晴、三浦裕司、中山哲成、斎藤一隆、松岡陽、小山政史、宮川友明、川上理：転移性腎細胞癌に対するイピリムマブ/ニボルマブ療法後の2次治療の治療成績と有害事象について、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜
- 9) 佐野雄太、井上雅晴、鷺野聡、城武卓、竹下英毅、三浦裕司、中山哲成、宮川友明、小山政史、川上理、斎藤一隆、松下陽：免疫関連有害事象によるNivo/Ipi中断後の再開有無による治療効果、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜
- 10) 佐藤広高、大塚勝太、安部弘和、宮川友明：腹腔鏡下仙骨脛固定術における吸収性縫合糸と永久縫合糸の比較：前向き観察研究、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜
- 11) 大島将、鷺野聡、井上雅晴、城武卓、永本将一、竹下英毅、三浦裕司、中山哲成、松岡陽、小山政史、川上理、斎藤一隆、宮川友明：腫瘍量は進行腎細胞がんに対するニボルマブ+イピリムマブ併用療法の効果を予測する、第111回日本泌尿器科学会総会、2024年4月25日～27日、横浜

【その他】

- 1) 鷺野聡：Session1「高齢者の薬物療法」、腎癌診療Webセミナー、2023年11月30日、Web開催
- 2) 鷺野聡：講演「当センターの夜間頻尿専門外来について」、KISSEI Web Seminar、2024年1月25日、TKP大宮ビジネスセンター、Web開催
- 3) 齊藤公俊：基調講演「当科でのRANUとRARC」、UC Expert Meeting、2024年2月14日、Web開催
- 4) 宮川友明：講演「上部尿路上皮癌に対するロボット手術の経験」、UC Expert Seminar in 埼玉 Vol.2、2024年2月16日、Web開催
- 5) 宮川友明：講演2「daVinci Xiによる後腹膜アプローチロボット支援腎尿管全摘術」、GUC Next Generation Conference、2024年2月29日、Web開催
- 6) 鷺野聡：ディスカッションパート「個別化治療に到達した印象に残る前立腺癌症例」、前立腺癌ゲノムカンファレンス、2024年3月18日、パレスホテル大宮、Web開催
- 7) 宮川友明：パネルディスカッション「腎細胞癌1

次治療の治療選択と使用経験」、第6回県央地区がん免疫療法セミナー、2024年3月21日、Web開催

- 8) 鷺野聡：講演「Apalutamideの特性と臨床上的位置づけ」、Spotlight、2024年4月10日、Web開催
- 9) 鷺野聡：講演「泌尿器科領域におけるirAE Managementについて～実臨良での経験を踏まえて～」、irAE Management Seminar in Saitama、2024年4月17日、Web開催

【著者 総説】

なし

■ 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【原著論文】

- 1) 吉田尚弘：難聴・中耳炎は血管炎のはじまりか？ ANCA関連血管炎性中耳炎. ROKiVA Letter, 3 (1), 8-11, 2023
- 2) 金沢弘美, 窪田 和, 谷口貴哉, 澤 允洋, 高橋英里, 民井 智, 江洲欣彦, 吉田尚弘：一側性難聴児のマスク装用における学校生活での聴取への影響および補聴器装用による聴取改善効果の検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報, 126(10), 1134-1141, 2023
- 3) Hoshi Y, Shirakura S, Yamada M, Sugiyama T, Koide N, Tamii S, Kamata K, Yokomura M, Osaki S, Ohno T, Yagihara K, Hara H, Beppu T. : Site of distant metastasis affects the prognosis with recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma patients treated with Nivolumab. Int J Clin Oncol. 2023 Sep;28(9):1139-1146. doi: 10.1007/s10147-023-02381-3. Epub 2023 Jul 8.
- 4) 島崎幹夫、鈴木政美、吉田尚弘：急性炎症と出血を伴った代償性舌扁桃肥大例. 耳鼻咽喉科臨床, 117 (4), 333-336, 2024
- 5) 大瀧薫, 梅本尚可, 鈴木政美, 倉林貴之, 出光俊郎：毛母腫の診断で経過観察していた巨大毛母腫の一例. 皮膚病診療, 46 (2), 182-185, 2024
- 6) Ikeda R, Ohta S, Yoshioka S, Endo S, Lee K, Kikuchi T, Yoshida H, Inagaki A, Kaneko A, Kobayashi H, Yoshida N, Oshima T, Mizuta K, Morita M, Yamaguchi N, Takahashi H, Kobayashi T. : A manual of Eustachian tube function tests-illustration of representative test results obtained from healthy subjects and typical disorders with suggestion of the appropriate test method of choice. Auris Nasus

Larynx. 2024 Feb;51 (1):206-213. doi: 10.1016/j.anl.2023.06.005. Epub 2023 Jul 5.

- 7) Esu Y, Tamii S, Kanazawa H, Iino Y, Yoshida N : Surgical management of secondary acquired cholesteatoma depends on its characteristics. Auris Nasus Larynx. 2024 Mar 22;51 (3):465-471. doi: 10.1016/j.anl.2024.01.005.

【学会発表】

- 1) 島崎幹夫, 白倉聡, 苦瓜治彦, 福島亮, 大野貴史, 吉田祥徳, 小出暢章, 別府武 : 当科における局所進行非HPV関連中咽頭癌の治療成績. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023年6月15-16日, 大阪市
- 2) 水田邦博, 小林俊光, 池田怜吉, 稲垣 彰, 遠藤志織, 大田重人, 金子明弘, 菊地俊晶, 守田雅弘, 山口展正, 吉岡哲志, 吉田晴郎, 李 佳奈, 吉田尚弘, 小林一女, 大島猛史, 高橋晴雄 : ガイドライン委員会耳管ワーキンググループ : 鼻すすりの見つけ方. 第33回日本耳科学会 総会・学術講演会, 2023年11月2-4日, 高崎市
- 3) 小林俊光, 池田怜吉, 稲垣 彰, 遠藤志織, 大田重人, 金子明弘, 菊地俊晶, 守田雅弘, 山口展正, 吉岡哲志, 吉田晴郎, 李 佳奈, 吉田尚弘, 小林一女, 大島猛史, 水田邦博, 高橋晴雄 : ガイドライン委員会耳管ワーキンググループ : これだけやれば大丈夫鼓膜形成術・真珠腫手術の術前耳管評価. 第33回日本耳科学会 総会・学術講演会, 2023年11月2-4日, 高崎市
- 4) 長谷川雅世, 天野雄介, 木原淳, 松原大祐, 福嶋敬宜, 仁木利郎 : 口腔扁平上皮癌における免疫学的癌微小環境の病理学的特徴. 第113回日本病理学会総会, 2024年3月28-30日, 名古屋市
- 5) 吉田尚弘 : ANCA関連血管炎性中耳炎(OMAAV)の臨床像. 第113回日本病理学会総会, 2024年3月28-30日, 名古屋市

【著書・総説】

- 1) 林 諒子, 末田敬志朗, 山下武志, 森本 潤, 利根澤しおり, 船崎俊介, 金沢弘美, 岡部直太, 大城 久, 菅原 齊 : 高Ca血症からサルコイドーシスと診断された維持血液透析患者の1例. 日本老年医学会雑誌, 60 (4), 458, 2023
- 2) 森本 潤, 山田穂高, 高橋明日翔, 利根澤しおり, 船崎俊介, 吉田昌史, 永島秀一, 原 一雄, 澤 允洋 : 菌血症と顕著な甲状腺機能亢進を認めた急性化膿性甲状腺炎の一例. 日本内分泌学会雑誌, 99 (2), 594, 2023

- 3) 吉田尚弘 : 耳鼻咽喉科疾患に対する外用薬の効果的な使用方法 中耳・内耳疾患. JOHNS, 40 (1), 57-60, 2024
- 4) 吉田尚弘 : 難治性中耳炎の治療－病院治療のメリット, デメリット－. JOHNS, 40 (3), 263-266, 2024

■ 産婦人科

【学会運営】

- 1) 第25回埼玉県産婦人科医会内視鏡研究会、当番世話人 近澤研郎、代表世話人 今野 良、2024年2月10日、さいたま（大宮ソニックシティ）

【原著論文】

- 1) Chikazawa K, Muro S, Yamaguchi K, Imai K, Kuwata T, Konno R, Akita K : Denonvilliers' fascia as a potential nerve-course marker for the female urinary bladder. Gynecol Oncol. 2024 Jan 24;184:1-7. Online ahead of print.
- 2) Chikazawa K : Four-step Technique on Ureteral Safety in Total Laparoscopic Hysterectomy. Gynecol Minim Invasive Ther. 12 (4):251-252, 2023
- 3) Chikazawa K, Imai K, Misawa M, Kuwata T : A Safe and Standardized Strategy for Laparoscopic Hysterectomy in Patients with a History of Cesarean Section. Gynecol Minim Invasive Ther. 12 (1):46-47, 2023
- 4) Chikazawa K, Imai K, Kuwata T, Konno R : Improved bladder function in radical hysterectomy without worsening oncologic outcome: resection of the posterior layer of the vesicouterine ligament with the procedure limited to the vesical veins. J Gynecol Oncol. 2023 Dec 13. Online ahead of print.
- 5) Fukai S, Maeda S, Chikazawa K, Rikiyama T : Strangulated bowel obstruction caused by vaginal perforation due to vaginal cancer in a patient with chronic uterine prolapse. BMJ Case Rep. 16 (12):e255815, 2023

【学会発表】

- 1) 今野 良, 西本（垣内）綾子, 佐藤和泉, 加藤淳彦, 山海 直 : 【ワークショップ1 卵巣機能を考慮した子宮内膜症の治療の工夫】ホルモンに依らない子宮内膜症の新規治療戦略－抗 IL-8中和抗体を用いた検討－. 第45回日本エンドメトリ

オーシス学会学術講演会、2024年1月20日～21日、東京

- 2) 今野 良、西本（垣内）綾子、佐藤和泉、加藤淳彦、山海 直：Pathogenesis－正所性子宮内膜と子宮内膜症の間質構成成分の違い。第45回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会、2024年1月20日～21日、東京
- 3) 三澤将大、近澤研郎、藤森 玲、大澤奈月、阪口百佳、安東慶子、小澤利佳、窪田有希、黄 弘吉、横田美帆、石黒 彩、柴田あずさ、一井直樹、今井 賢、今野 良、桑田知之：vNOTES後に子宮仮性動脈瘤を形成し破綻した1例。第25回埼玉県産婦人科医会内視鏡研究会、2024年2月10日、さいたま
- 4) 近澤研郎：子宮頸癌、子宮体癌診療の現状－当施設における診療状況を踏まえて－。令和5年度第3回大宮産婦人科医会学術講演会、2024年2月29日、さいたま

【その他】

- 1) 今野 良：HPVワクチンのキャッチアップは今年限り、定期もなるべく早期の接種を。膠原病と妊娠を考える会、2024年3月2日、WEB開催
- 2) 今野 良：子宮頸がん検診は細胞診から高感度なHPV検査に～女性に優しい新しい検査が自治体の歳出を減らす～。公明党神奈川県本部 子宮頸がん検診研修会、2024年3月30日、神奈川

■ 皮膚科

【原著論文】

- 1) Kaneko H, Kanai M, Saito T, Yanagi Y, Kobayashi H, Kurihara R, Ikeda M, Nemoto O, Baba N, Matsuzaki Y, Sawamura D, Shimoe F, Inaba Y, Kobayashi Y, Kawasaki S, Ueki T, Funatsu S, Shirahama S, Oba M, Hasegawa T, Furukawa H, Miyata T, Isonokami M, Fujita S, Nakaminami H : Significant increase in the prevalence of Pantone-Valentine leukocidin-positive methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*, particularly the USA300 variant ΨUSA300, in the Japanese community. Microbiol Spectr 11 (6): e0124823, 2023
- 2) Hatta N, Ogata D, Asai J, Maekawa T, Ito T, Takenouchi T, Kiniwa Y, Miyashita A, Miyagawa T, Muto I, Yamamoto Y, Nagano T, Kiyohara Y, Nakano E, Ohe S, Yamaguchi B, Fukuyama M, Matsuya T, Tsutsumida A, Namikawa K, Yamazaki N: Recent treatment and prognosis in 643 patients with extramammary Paget's disease. Exp Dermatol: 33 (2): e15030, 2024
- 3) Fujimura T, Yoshino K, Nakamura M, Kato H, Ito T, Maekawa T, Fujisawa Y, Matsushita S, Amagai R, Yamazaki E, Takahashi M, Tamabuchi E, Hashimoto A, Kambayashi Y, Yamazaki N, Miyata T, Asano Y: Efficacy and safety of TM5614 in combination with paclitaxel in the treatment of paclitaxel-resistant cutaneous angiosarcoma: Phase II study protocol. Exp Dermatol: 33 (1): e14976, 2024
- 4) Muto Y, Kambayashi Y, Kato H, Fukushima S, Ito T, Maekawa T, Fujisawa Y, Yoshino K, Uchi H, Matsushita S, Yamamoto Y, Amagai R, Ohuchi K, Hashimoto A, Asano Y, Fujimura T: Adverse events associated with postoperative outcomes of adjuvant anti-PD-1 antibody therapy in both acral and non-acral cutaneous melanomas: A multicenter, observational, post hoc analysis study. J Dermatol: 51 (3): 458-462, 2024
- 5) Karube D, Kamiya K, Sugihara N, Maekawa T, Komine M, Ohtsuki M: A case of bilateral dacryocystitis caused by *Streptococcus constellatus* and *Actinomyces israelii*. J Dermatol: 51 (4): e135-136, 2024
- 6) Umemoto N, Kakurai M, Matsumoto T, Mizuno K, Cho O, Sugita T, Demitsu T : Dupilumab Alters Both the Bacterial and Fungal Skin Microbiomes of Patients with Atopic Dermatitis. Microorganisms 12: 224, 2024
- 7) 前川武雄: ISSVA分類に記載されていない脈管異常(解説). 皮膚科 4 (6): 678-683, 2023
- 8) 中西健史, 池上隆太, 大森俊, 加藤裕史, 小森敏史, 清水知道, 杉田和成, 谷崎英昭, 中島英貴, 林周次郎, 松尾梨沙, 三井広, 柳澤宏人, 山口道也, 山崎修, 西出薫, 浅野善英, 藤原浩, 前川武雄, 茂木精一郎, 吉野雄一郎, 長谷川稔, 藤本学, 立花隆夫: 日本皮膚科学会ガイドライン 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽診療ガイドライン (第3版). 皮膚科 133 (13): 2969-3024, 2023
- 9) 浅野善英, 浅井純, 石井貴之, 岩田洋平, 小寺雅也, 宮部千恵, 内山明彦, 小川陽一, 岡村賢, 岸部麻里, 小池雄太, 壽順久, 藤本徳毅, 宮城拓也, 山口由衣, 吉崎歩, 大森礼子, 中西健史, 藤原浩, 前川武雄, 茂木精一郎, 吉野雄一郎, 長谷川稔, 藤本学, 立花隆夫: 日本皮膚科学会ガイドライン 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽診療ガ

- イドライン (第3版). 皮膚科 134 (1): 1-63, 2024
- 10) 前川武雄、伊藤孝明、出月健夫、太田真由美、坂井浩志、皿山泰子、田中隆光、新原寛之、伏間江貴之、牧野公治、八代浩、近藤晃代、浅野善英、中西健史、茂木精一郎、吉野雄一郎、藤原浩、長谷川稔、藤本学、立花隆夫: 日本皮膚科学会ガイドライン 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 下腿潰瘍・下肢静脈瘤診療ガイドライン (第3版). 皮膚科 134 (2): 225-272, 2024
 - 11) 吉野雄一郎、天野正宏、飯野志郎、尾本陽一、欠田成人、鹿児島浩、齊藤亨、境 恵祐、土井直孝、橋本彰、林昌浩、牧野雄成、増田未散、間所直樹、三木田直哉、安田正人、山田勝裕、浅野善英、中西健史、藤原浩、前川武雄、茂木精一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫: 日本皮膚科学会ガイドライン 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 熱傷診療ガイドライン (第3版). 皮膚科 134 (3): 509-557, 2024
 - 12) 前川武雄: 静脈性の皮膚血流障害. 皮膚科 5 (4): 362-368, 2024
 - 13) 大瀧 薫、梅本尚可、鈴木政美、倉林孝之、出光俊郎: 毛母腫の診断で経過観察されていた巨大毛母癌. 皮膚病診療46 (2) ; 182-185, 2024

【学会発表】

- 1) 磯永佳祐、勝又文徳、梅本尚可、前川武雄、出光俊郎: 増殖性天疱瘡との鑑別に苦慮した Pyodermitis-pyostomatitis vegetans. 第45回水疱症研究会、2024年1月12-13日、奈良
- 2) 勝又文徳、梅本尚可、大瀧 薫、前川武雄: 再発性環状紅斑様乾癬の臨床像を呈した落葉状天疱瘡の1例. 第45回水疱症研究会、2024年1月12-13日、奈良
- 3) 梅本尚可、水野謙太、松本崇直、加倉井真樹、張音美、杉田 隆、出光俊郎: デュピルマブ投与によるアトピー性皮膚炎患者前額病変部位の細菌と真菌マイクロバイオームの推移. 第29回アトピー性皮膚炎治療研究会、2024年2月3-4日、浜松
- 4) 松本崇直、梅本尚可、木村俊一、前川武雄、出光俊郎: シクロスポリン内服中のアトピー性皮膚炎に合併した顔面、頸部のリンパ腫様丘疹症type Cの1例. 第29回アトピー性皮膚炎治療研究会、2024年2月3-4日、浜松
- 5) 磯永佳祐、勝又文徳、梅本尚可、前川武雄、出光俊郎: 当院で経験したG-CSF産生有棘細胞癌の1例. TH11カンファレンス、2024年2月5日、さいたま・Web開催
- 6) 福井伶奈、梅本尚可、水野謙太、酒井利育、岡部

- 直太、大城久、出光俊郎: 激しい疼痛を伴った *Microsporum canis* によるケルスス禿瘡の2例. 日本皮膚科学会東京支部第910回東京地方会、2024年2月17日、東京 (Web開催)
- 7) 松坂美貴、勝又文徳、梅本尚可、前川武雄: 白癬で脚色され診断が遅れた趾間有棘細胞癌の1例. 日本皮膚科学会第910回東京地方会、2024年2月17日、Web開催
 - 8) 重田志織、吉野雄大、宮田聡子: 老人性血管腫の狙撃生検によって診断した血管内大細胞型B細胞リンパ腫の一例. 第58回大宮医学会総会、2024年3月16日、さいたま
 - 9) 藤野久実佳、梅本尚可、前川武雄、矢部寛樹、原田和俊、澁谷和俊、出光俊郎: 全身性エリテマトーデスに伴った侵襲性皮膚糸状菌症の1例. 第31回埼玉難治性皮膚疾患臨床研究会、2024年4月6日、さいたま
 - 10) 宮田聡子、渡辺恒希、久下沼千代子、東佳代、鈴木忠士、志田博: 下腿切断端に生じた義足による難治性皮膚潰瘍. 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、2024年4月20-21日、宇都宮
 - 11) 前川武雄: 皮膚悪性腫瘍の病診連携. 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、2024年4月21日、宇都宮
 - 12) 松坂美貴、勝又文徳、梅本尚可、前川武雄: 足白癬で脚色され診断が遅れた趾間有棘細胞癌の1例. 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、2024年4月20-21日、宇都宮
 - 13) 梅本尚可、大瀧 薫、金田雅祐子、前川武雄、出光俊郎: 波板状爪を合併した爪下爪下グロムス腫瘍の1例. 第40回日本臨床皮膚科医会学術大会、2024年4月20-21日、宇都宮

【著者 総説】

- 1) 前川武雄: 蜂窩織炎. 春のけんこう. 社会保険出版社, pp19, 2024
- 2) 前川武雄: 褥瘡. 皮膚疾患 初期対応ノート, 常深祐一郎 編 日本医事新報社, pp76-83, 2024
- 3) 前川武雄: 皮膚悪性腫瘍で知っておいて頂きたい現在の治療 ～こんな患者さんは専門医へご相談ください～. 浦和医師会会報, pp47-48, 2023
- 4) 前川武雄: 皮膚潰瘍治療薬. みんなの外用薬 第2版, 常深祐一郎 編 南江堂, pp59-63, 2024

【その他】

- 1) 前川武雄: BRAF遺伝子変異に応じたメラノーマの治療戦略, Melanoma Seminar in IWATE, 2023年12月15日、盛岡市

- 2) 前川武雄: 皮膚がん診療の現状と病診連携, Dermatologist meeting ～皮膚腫瘍治療について考える～, 2023年12月20日, 福井市
- 3) 前川武雄: BRAF陽性悪性黒色腫 術後アジュバント療法後の再発例, Melanoma RWD Expert Discussion, 2023年6月9日, 東京
- 4) 前川武雄: 創傷被覆材と外用薬を賢く使い分けるコツ, 日本褥瘡学会関東甲信越地方会 第12回埼玉支部セミナー&第9回埼玉県在宅褥瘡セミナー, 2024年1月20日, 川越市
- 5) 前川武雄: 下肢静脈瘤・静脈性下腿潰瘍の治療戦略update, わらじ会, 2024年1月25日, 東京
- 6) 前川武雄: ニボルマブ+イピリムマブ併用療法の意義, Melanoma Web Live Seminar, 2024年2月8日, 東京
- 7) 前川武雄: 化膿性汗腺炎の治療戦略 ～外科的治療と生物学的製剤治療のタイミング～, 宮城県炎症性皮膚疾患セミナー, 2024年2月9日, 気仙沼市
- 8) 前川武雄: 進行期メラノーマの治療経験 ～あなたならどうする?～, 第7回Melanoma Expert Meeting in Niigata, 2024年2月10日, 新潟市
- 9) 前川武雄: 化膿性汗腺炎の外科的治療, 新潟県炎症性皮膚疾患セミナー, 2024年3月7日, 新潟市
- 10) 前川武雄: 皮膚がん診療の現状と病診連携, さいたま市学術講演会, 2024年3月12日, さいたま市
- 11) 前川武雄: アジュバント療法後(中)に再発したBRAF陽性メラノーマの治療経験, 埼玉メラノーマセミナー, 2024年3月27日, さいたま市
- 12) 前川武雄: 化膿性汗腺炎最新治療戦略 ～早期治療介入の重要性～, 化膿性汗腺炎 病診連携講演会, 2024年4月23日, 東京

■ 歯科口腔外科

【原著論文】

- 1) 渡邊秀紀, 小佐野仁志, 内藤浩美, 安彦圭悟, 佐藤雄飛, 土肥昭博, 野口忠秀, 森 良之: 顎下部に生じた脂肪腫の1例. 自治医科大学紀要 2023,46: 47-52, 2024. (2024. 03)
- 2) Dohi A, Noguchi T, Yamashita M, Sasaguri K, Yamamoto T, Mori Y: Acute stress transiently activates macrophages and chemokines in cervical lymph nodes. Immunol Res. 72, 2024. <https://doi.org/10.1007/s12026-023-09409-w> (2024. 02)

【学会発表】

- 1) 相澤恵美, 山本亜紀, 仁保千秋, 林 宏栄, 杉浦康史, 森 良之, 野口忠秀: Nd: YAGレーザーによる治療を行った舌血管腫の臨床評価. 第216回(公社)日本口腔外科学会関東支部学術集会, 東京, 2023年12月9日. (プログラム抄録集 p18)
- 2) 作山 葵, 立川敬子, 林 宏栄, 山本亜紀, 森良之, 野口忠秀: インプラント補綴スクリューの破折を何度も繰り返したことによりSRAの破折を生じた1例. 第27回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 東京, 2023年12月2,3日. (顎顔面インプラント誌 22 (3): 256, 2023)
- 3) 佐藤雄飛, 佐瀬美和子, 安彦圭悟, 土肥昭博, 渡邊秀紀, 森 良之: 抜歯後に非典型的な治癒経過をたどった下顎水平埋伏智歯の1例. 第216回(公社)日本口腔外科学会関東支部学術集会, 東京, 2023年12月9日. (プログラム抄録集 p18)
- 4) 安彦圭悟, 土肥昭博, 杉浦康史, 森 良之, 野口忠秀: 後縦靱帯骨化症により頸部郭清術後に上肢の運動障害を認めた舌癌患者の1例. 第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p213)
- 5) 林 宏栄, 杉浦康史, 尾田誠一郎, 作山 葵, 早坂純一, 森 良之, 野口忠秀: 下顎区域切除前後におけるレジンプレーム法を応用した患側骨片復位に対するCT画像評価の検討. 第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p251)
- 6) 峯村祐貴, 杉浦康史, 安武来由, 林 宏栄, 尾田誠一郎, 作山 葵, 岡田成生, 森 良之, 野口忠秀: AYA (Adolescent and Young Adult) 世代に発生した口底明細胞癌の1例. 第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p206)
- 7) 小貫安紀, 林 宏栄, 川嶋理恵, 山本亜紀, 篠崎泰久, 相澤恵美, 神部芳則, 森 良之, 野口忠秀: 当科で診断した破傷風3例の臨床的検討. 第33回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 新潟, 2024年3月8-10日. (プログラム・抄録集 p127)
- 8) 佐藤弘平, 大谷津幸生, 杉浦康史, 土肥昭博, 串田淳子, 森 良之, 野口忠秀: 上顎癌術後による摂食嚥下障害患者に対し入院下での集中的嚥下リハビリテーションが奏功した1例. 第32回茨城県歯科医学会, 水戸, 2024年3月24日. (プログラム抄録集 p11)
- 9) 杉浦康史, 林 宏栄, 尾田誠一郎, 土肥昭博, 作山 葵, 森 良之, 野口忠秀: 下顎悪性腫瘍切除・再建症例の組織欠損と口腔機能回復の検討.

第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p250)

- 10) 田尻ななほ, 若林宣江, 秋元麻美, 鈴木祐子, 月村久恵, 林 宏栄, 土肥昭博, 作山 葵, 杉浦康史, 森 良之, 野口忠秀: 当科でおこなっている口腔悪性腫瘍手術後の摂食嚥下訓練における歯科衛生士の役割. 第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p185)
- 11) 安武茉由, 杉浦康史, 峯村祐貴, 林 宏栄, 尾田誠一郎, 土肥昭博, 作山 葵, 森 良之, 野口忠秀: 口唇扁平上皮癌に対してカスタマイズした補助装置によりモールド照射を行った7例. 第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 札幌, 2024年1月25, 26日. (プログラム・抄録集 p191)

【著書・総説】

- 1) 森 良之: 4. 口腔・顎・顔面の嚢胞および類似疾患. 最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学, 道 健一監修, 高橋浩二, 代田達夫, 近津大地, 野原乾司編集, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2024, pp112-117. (2024. 03)

■ 麻酔科集中治療部

【原著論文】

- 1) Yoshitani K, Ogata S, Kato S, Tsukinaga A, Takatani T, Kin N, Ezaka M, Shimizu J, Furuichi Y, Uezono S, Kida K, Seo K, Kakumoto S, Miyawaki H, Kawamata M, Tanaka S, Kakinohana M, Izumi S, Uchino H, Kakinuma T, Nishiwaki K, Hasegawa K, Matsumoto M, Ishida K, Yamashita A, Yamakage M, Yoshikawa Y, Morimoto Y, Saito H, Goto T, Masubuchi T, Kawaguchi M, Tsubaki K, Mizobuchi S, Obata N, Inagaki Y, Funaki K, Ishiguro Y, Sanui M, Taniguchi K, Nishimura K, Ohnishi Y. Effect of cerebrospinal fluid drainage pressure in descending and thoracoabdominal aortic repair: a prospective multicenter observational study. *J Anesth.* 37 (3):408-415, 2023
- 2) Iizuka Y, Yoshinaga K, Nakatomi T, Takahashi K, Yoshida K, Sanui M. A low peripheral perfusion index can accurately detect prolonged capillary refill time during general anesthesia: A prospective observational study. *Saudi J Anaesth.* 17 (1):33-38, 2023
- 3) Fukano K, Hirasaki Y, Otsuka Y. Assessment of selective coronary perfusion using transesophageal echocardiography. *Anaesth Rep.* 11 (2), 2023
- 4) Dan K, Takahashi K, Lefor AK. Measuring and maintaining organ perfusion in a patient with Takayasu's arteritis undergoing cardiac surgery. *JA Clin Rep.* 9 (1):40, 2023
- 5) Ono S. Driving pressure: pitfalls of methods that do not use esophageal pressure measurement. *Intensive Care Med.* 49 (9):1147-1148, 2023
- 6) Takahashi K, Sakurai K, Hamaya I. Anesthetic management of a pediatric patient with Freeman-Sheldon syndrome undergoing atrial septal defect closure: a case report. *JA Clin Rep.* 9 (1):40, 2023
- 7) Iizuka Y, Yoshinaga K, Takahashi K, Oki S, Chiba Y, Sanui M, Kimura N, Yamaguchi A. Association between plasma ascorbic acid levels and postoperative delirium in older patients undergoing cardiovascular surgery: a prospective observational study. *J Cardiovasc Dev Dis.* 10 (7):293, 2023
- 8) Suzuki R, Uchino S, Sasabuchi Y, Lefor AK, Shiotsuka J, Sanui M. Enteral free water vs. parenteral dextrose 5% in water for the treatment of hypernatremia in the intensive care unit: a retrospective cohort study from a mixed ICU. *J Anesth.* 37:868-879, 2023
- 9) Fukano K, Iizuka Y, Ueda T, Fukuda Y, Otsuka Y, Sanui M. Comparison of sedation with ketamine-propofol versus propofol-fentanyl for elderly patients undergoing prostate biopsy: a retrospective observational study. *Cureus.* 15(7), 2023
- 10) Fukano K, Honma Y, Norii T, Japanese Procedural Sedation and Analgesia Registry Investigators. Efficacy of supplemental oxygen during procedural sedation and analgesia in elderly patients in the emergency department. *J Emerg Med.* 65 (4):310-319, 2023
- 11) Yoshinaga K, Tsujimoto Y, Imai E. Blinding in randomized controlled trials of intrathecal morphine administration: can patients and anesthesia providers really be blinded?. *Anesth Analg.* 137 (4):35-36, 2023
- 12) Takahashi K, Uenishi N, Sanui M, Uchino S, Yonezawa N, Takei T, Nishioka N, Kobayashi H, Otaka S, Yamamoto K, Yasuda H, Kosaka

S, Tokunaga H, Fujiwara N, Kondo T, Ishida T, Komatsu T, Endo K, Moriyama T, Oyasu T, Hayakawa M, Hoshino A, Matsuyama T, Miyamoto Y, Yanagisawa A, Wakabayashi T, Ueda T, Komuro T, Sugimoto T, Lefor AK. Clinical profile of patients with diabetic ketoacidosis and hyperglycemic hyperosmolar syndrome in Japan: a multicenter retrospective cohort study. *Acta Diabetol.* 2023

- 13) Ono S, Sanui M. Procalcitonin-guided antibiotic prescription in patients with COVID-19: improving the comparability and clarity of the study. *Chest.* 164 (4):123, 2023
- 14) Fukano K, Iizuka Y, Nishiyama S, Yoshinaga K, Uchino S, Sasabuchi Y, Sanui M. Characteristics of pulmonary artery catheter use in multicenter ICUs in Japan and the association with mortality: a multicenter cohort study using the Japanese Intensive care PATient Database. *Crit Care.* 27 (1):412, 2023
- 15) Ono S, Shimizu K. Analysis of the association between the number of intensivists and the use of cardiovascular agonists: an ecological study using data from national databasess of Japan. *Cureus.* 15 (11) , 2023
- 16) Yoshinaga K, Iizuka Y, Sanui M, Faraday N. Low-volume acute normovolemic hemodilution does not reduce allogeneic red blood cell transfusion in cardiac surgery in the modern era of patient blood management: a propensity score-matched cohort study. *J Cardiothorac Vasc Anesth.* 2023
- 17) Nagatomo K, Sanui M, Masuyama T, Iizuka Y, Shiotsuka J. A Preliminary Study on the Utility of Root® with SedLine® for Sleep Evaluation in Critically Ill Patients: Comparison with Polysomnography and the Richards-Campbell Sleep Questionnaire. *J Intensive Crit Care* 9 (2) 20-27, 2023.

【学会発表】

海外

- 1) Hirasaki Y, Yoshinaga K, Kuroda M. Preoperative states and hemodilution: factors affecting hemostasis in cardiac perioperative period. *Euroanesthesia* 2023, Glasgow, Scotland.
- 2) Takahashi K, Yoshida K, Honda A, Yoshinaga K, Iizuka Y. Preoperative states and hemodilution:

factors affecting hemostasis in cardiac perioperative period. *Euroanesthesia* 2023, Glasgow, Scotland.

国内

- 1) 内野滋彦：JIPAD update 2023. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 2) 安田英人, 讃井將満, 田坂定智, 竹内宗之, 大下慎一郎, 橋本悟, 江木盛時, 一門和哉, 津島健司, 南郷栄秀：ガイドライン作成の裏側・次版作成への課題. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 3) 増山智之, 塩塚潤二, 讃井將満：Tele-ICUとオンライン会議システムを活用した毎朝のICUカンファレンス. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 4) 飯塚悠祐：遠隔ICUを取り巻く現状及び日本集中治療医学会ad hoc遠隔ICU委員会の取組について. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 5) 相賀咲央莉, 塩塚潤二, 岡村岳, 朴啓俊, 西山聖也, 鈴木伶奈, 齋藤浩史, 山嶋誠一, 上村直, 讃井將満：7ヶ月間のVV-ECMO管理の後に敗血症性ショックで死亡したCOVID-19患者の臨床経過と病理像. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 6) 岡村岳, 増山智之, 田中三千穂, 朴啓俊, 相賀咲央莉, 西山聖也, 鈴木伶奈, 上村直, 塩塚潤二, 讃井將満：神経学的予後の不確実性にTime-limited trialsを適用した重症メトホルミン中毒の一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 7) 齋藤浩史, 澤田郁美, 塩塚潤二, 内野滋彦, 讃井將満：甲状腺クリーゼの合併症としての劇症肝炎：症例報告とSystematic Review. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月2日, 京都
- 8) 鈴木伶奈, 西山聖也, 上村直, 深野賢太郎, 岡村岳, 林康文, 眞山英徳, 崎山快夫, 塩塚潤二, 讃井將満：10年間の引きこもり後, 意識障害による救急搬送を契機に発見された遺伝性筋疾患の一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月3日, 京都
- 9) 高木俊介, 野村岳志, 八反丸善裕, 松村洋輔, 飯塚悠祐, 大下慎一郎, 神尾直, 小谷透, 大網毅彦, 堤貴彦, 長谷川高志, 橋本悟, 久志本成樹, 西田修：遠隔ICUを本邦で普及するための保険戦略と委員会の活動について. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月4日, 京都

- 10) 深野賢太郎, 本間洋輔, 竹内慎哉, 星野あつみ, 船越拓, 乗井達守: 処置時の鎮静鎮痛 (Procedural Sedation and Analgesia) の事故をなくすため集中治療医が知っておくべきこと. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月4日, 京都
- 11) 飯塚悠祐: 教育セミナー「集中治療室及び周術期における血行動態モニタリングについて」. 日本集中治療医学会第7回関東甲信越支部学術集会, 2023年7月1日, 東京
- 12) 増山智之, 塩塚潤二, 西山聖也, 讃井將満: ICUにおける睡眠促進薬としてオレキシント受容体拮抗薬は有効か. 第45回日本呼吸療法医学会学術集会, 2023年8月5日, 名古屋
- 13) 近藤真, 西山聖也, 吉永晃一, 飯塚悠祐, 仲富岳, 大塚祐史: 冠動脈ステント留置術後に抗血小板薬を自己中断していた患者が、膿胸術後に急性心筋梗塞を発症した1例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会, 2023年9月2日, 東京
- 14) 諏訪皓士, 高橋京助: 新生児における高用量レミフェンタニル麻酔の後方視的研究. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会, 2023年9月2日, 東京
- 15) 齋藤大之, 吉永晃一: 筋強直性ジストロフィー患者に対して脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔で人工肛門造設術を行った1例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会, 2023年9月2日, 東京
- 16) 本多彩乃, 宮澤恵果, 澤田郁美, 仲富岳, 飯塚悠祐: 妊娠35週にStanford B型急性大動脈解離を発症し、緊急で脊髄くも膜下麻酔下に帝王切開術を行ったマルファン症候群の一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会, 2023年9月2日, 東京
- 17) 上田尊弘, 千葉圭彦, 仲富岳, 飯塚悠祐: 左肺全摘後の右気胸に対して、ダブルルーメンチューブを用いた右上葉/中間幹の分離肺換気で術中管理を行った1例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第63回合同学術集会, 2023年9月2日, 東京
- 18) 福田有, 吉永晃一, 近藤真, 大塚祐史: 肺血栓栓症に対する外科的血栓摘除術後にアンデキサネットアルファを使用した良好な止血が得られた一例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月16日, 奈良
- 19) 網谷静香, 吉永晃一, 千葉圭彦, 高橋京助, 大塚祐史: 麻酔導入後の経食道心エコーおよび肺動脈カテーテルにより右室二腔症が判明した成人期手術の1例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月16日, 奈良
- 20) 大木紗弥香, 迫田厚志, 岩澤由梨香, 関周太郎, 寺端昭博, 高山渉: Stanford A型急性大動脈解離で、経心尖部上行大動脈送血時に巨大内膜裂孔を介して偽腔送血を来した1例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月16日, 奈良
- 21) 寺端昭博, 大木紗弥香: 人工心肺回路の送血管遮断が僧帽弁形成術後に生じたSAMによるMRを改善させた症例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月16日, 奈良
- 22) 清水麻衣, 山本偉, 玉里順子: 無縫合生体弁大動脈弁置換術後に認めた人工弁機能不全の原因診断に経食道心エコー図検査が有用であった一例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月16日, 奈良
- 23) 本多彩乃, 吉永晃一, 平崎裕二, 大塚祐史: 心拍動下冠動脈バイパス術中に卵円孔開存による右左シャントによって低酸素血症をきたした一例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月17日, 奈良
- 24) 上田尊弘, 千葉圭彦, 吉永晃一, 平崎裕二, 大塚祐史: 肺血栓栓症に対する人工心肺手術中に脱血不良に陥った1例. 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会, 2023年9月17日, 奈良
- 25) 深野賢太郎, 乗井達守, 金成浩, 竹内慎哉, 竹内広幸, 船越拓, 本間洋輔: 日本の救急領域におけるPSA (Procedural Sedation and Analgesia) の現在地と未来. 第51回日本救急医学会・学術集会, 2023年11月29日, 東京

【著者 総説】

- 1) 網谷静香, 吉永晃一, 讃井將満: 人工心肺離脱時の左室壁運動異常. LiSA 特集「症例ライブラリー: これ、人工心肺から離脱してOK?」, LiSA 30 (10):1030-1033, 2023
- 2) 大木紗弥香, 塩塚潤二: 心臓外科の術後管理では何に注意すればよいですか?. レジデントノート増刊 Vol.25 No.11「もう迷わない! ICUでの考え方、動き方」, 羊土社, 2023
- 3) 深野賢太郎: 気管挿管、en bloc法、Down & Up法. 救急医学 特集「Ⅲ. 窒息解除の手技とそのエビデンス」, 2023年3月号「人類 対 餅!? 窒息を科学する」, へるす出版, 2023
- 4) 岡本泰治, 増山智之: 輸液のモニタリング. LiSA 特集「徹底分析シリーズ 術中の輸液管理—自信をもってできていますか?」, LiSA 30 (11):1196-1201, 2023

- 5) 讃井将満 (監修): ナースのための基礎BOOK これならわかる! ICU看護の基本. 羊土社, 2023
- 6) 小野将平, 清水敬樹: 経肺圧測定. F 人工呼吸器管理, BMI over 30 肥満患者のER・ICU, 診断と治療社, 2023

【その他】

- 1) 深野賢太郎: 徹底ハンズオン! 外傷患者への気管挿管. 第27回 EMA meeting ER×外傷 ～一歩進んだ外傷診療を目指して～, 2023年9月10日, 神奈川
- 2) 深野賢太郎: 3. 『中毒王』. 第26回EMA meeting クスリも過ぎればドクとなる!? ERにおける中毒診療, 2023年3月5日.

その他

■ 栄養部

【学会発表】

- 1) 猪野瀬 渚: 約5か月の集中治療を要した術後縦隔炎症例に対する栄養管理の経験. 第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2024年2月15日, 横浜市
- 2) 猪野瀬 渚: タスク・シフト/シェアによる栄養療法が治療に貢献したうっ血性心不全の一例. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月15日, 札幌市

■ 臨床工学部

2023/12-2024/4

【発表】

- 1) 安田徹: 【パネルディスカッション『これってうちの当り前!?』】PD-2 これってうちの当り前!? ～半年でPerfusionistに!?～. 第46回日本体外循環技術医学会東海地方会学術大会発表のため 2024/01/27 愛知県小牧市中央丁目60番 名鉄小牧ホテル
- 2) 楠本雅哉、安田徹、岡田ひとみ、佐伯将城、中久佳鴻、草浦理恵、宇賀田裕介、山本真吾、大橋潤平、林達哉、藤田英雄: Lead Less Pacemaker設定プロトコル運用により、房室同期が大幅に改善を認めた一例. 第16回植込みデバイス関連冬季大会 2024/02/09 広島コンベンションホール
- 3) 永田夏海、小久保領: “自治医科大学附属さいたま医療センター”の症例. 埼玉心血管コメディカル研究会 定例会 CE部会 2024/02/09
- 4) 吉田澄枝、佐伯将城、草浦理恵、松田考平、永田夏海、新堀将也、百瀬直樹、宮川友明: 手術用ロボットの技術認定書の構築とその評価. 第16回日本ロボット外科学会 2024/02/10, 米子コンベンションセンター
- 5) 中久佳鴻、草浦理恵、安田徹、梅田千典、松田考平、岡田ひとみ、楠本雅哉、田中杏実、竹内寿里耶、塩野憧、高橋咲菜、吉田澄枝、百瀬直樹: 直接作用型Xa因子阻害剤中和剤の影響でヘパリン抵抗性を示した症例. 第30回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会 2024/4/20 東京たま未来メッセ

【著書】

- 1) 小久保領：体外循環に必要な知識、第2種ME
実力検定試験重要問題集中トレーニング2nd
edition、メジカルビュー社、p214-219

【その他】

- 1) 安田徹：基礎講演「IABP」東京都臨床工学技士会
第4回補助循環セミナー、2023/12/01、東京 Web
配信

■ 周産期科 母体胎児部門

【原著論文】

- 1) Matsumoto T, Umemoto N, Sato H, Takagi K,
Ko H, Yamada T, Kakurai M, Ishii N, Hashimoto
T, Demitsu T: A case of intractable pemphigoid
gestationis that was prolonged after delivery and
caused blisters in the neonate. Adv Dermatol
Allergol 40 (2):333-335, 2023
- 2) 大澤奈月、石黒 彩、小澤利佳、安東慶子、窪田
有希、阪口百佳、黄 弘吉、横田美帆、三澤将
大、牛嶋順子、堀内 功、桑田知之：胎児診断さ
れた多発性嚢胞性異形成腎（MCDK）の4例。
埼玉県医学会雑誌 58 (1): 276-279, 2024

【学会発表】

- 1) 木原彩智、石黒 彩、大澤奈月、渡辺晃子、藤
森 玲、米森恵美、横田美帆、黄 弘吉、今井
賢、牛嶋順子、近澤研郎、桑田知之：新生児聴覚
検査の精度管理：10年5675例の検討。第76回日本
産科婦人科学会学術講演会 2024年4月20日 東
京
- 2) 今井 賢、近澤研郎、三澤将大、一井直樹、
黄 弘吉、小澤利佳、阪口百佳、桑田知之、今野
良：vNOTES（経膈的内視鏡手術）の新規導入
と未来 vNOTESによる子宮全摘のTLHに対す
る優位性と術後の痛みの原因となる因子の解析。
日本内視鏡外科学会総会 2023年12月7日 横浜

【著者 総説】

- 1) 高木健次郎、小澤利佳、阪口百佳：妊娠中の生理
的な子宮収縮と切迫早産の子宮収縮の違いはどこ
までわかっているか。周産期医学 53巻増刊号
東京医学社, 2023, 74-76

■ 周産期科 新生児部門

【原著論文】

- 1) Berg KM, Bray JE, Ng KC, Liley HG, Greif R,
Carlson JN, Morley PT, Drennan IR, Smyth M,
Scholefield BR, Weiner GM, Cheng A, Djärv
T, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Andersen
LW, Atkins DL, Berry DC, Bhanji F, Bierens
J, Bittencourt Couto T, Borra V, Böttiger BW,
Bradley RN, Breckwoldt J, Cassan P, Chang
WT, Charlton NP, Chung SP, Considine J, Costa-
Nobre DT, Couper K, Dainty KN, Dassanayake V,
Davis PG, Dawson JA, de Almeida MF, De Caen
AR, Deakin CD, Dicker B, Douma MJ, Eastwood
K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Fijacko N,
Finn JC, Flores GE, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle
E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian AM,
Guinsburg R, Hatanaka T, Hirsch KG, Holmberg
MJ, Hosono S, Hsieh MJ, Hsu CH, Ikeyama T,
Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami
MD, Kim HS, Kleinman ME, Kloeck DA,
Kudenchuk P, Kule A, Kurosawa H, Lagina
AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin Y,
Lockey AS, Macneil F, Maconochie IK, Madar
RJ, Malta Hansen C, Masterson S, Matsuyama
T, McKinlay CJD, Meyran D, Monnelly V,
Nadkarni V, Nakwa FL, Nation KJ, Nehme Z,
Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou
N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, Ohshimo
S, Olasveengen TM, Ong YG, Orkin AM, Parr
MJ, Patocka C: 2023 International Consensus on
Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency
Cardiovascular Care Science With Treatment
Recommendations: Summary From the Basic
Life Support; Advanced Life Support; Pediatric
Life Support; Neonatal Life Support; Education,
Implementation, and Teams; and First Aid Task
Forces. Circulation.148 (24):187-280, 2023
- 2) Berg KM, Bray JE, Ng KC, Liley HG, Greif R,
Carlson JN, Morley PT, Drennan IR, Smyth M,
Scholefield BR, Weiner GM, Cheng A, Djärv
T, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Andersen
LW, Atkins DL, Berry DC, Bhanji F, Bierens
J, Bittencourt Couto T, Borra V, Böttiger BW,
Bradley RN, Breckwoldt J, Cassan P, Chang
WT, Charlton NP, Chung SP, Considine J, Costa-
Nobre DT, Couper K, Dainty KN, Dassanayake V,
Davis PG, Dawson JA, de Almeida MF, De Caen

- AR, Deakin CD, Dicker B, Douma MJ, Eastwood K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Fijacko N, Finn JC, Flores GE, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hatanaka T, Hirsch KG, Holmberg MJ, Hosono S, Hsieh MJ, Hsu CH, Ikeyama T, Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami MD, Kim HS, Kleinman ME, Kloeck DA, Kudenchuk P, Kule A, Kurosawa H, Lagina AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin Y, Lockett AS, Macneil F, Maconochie IK, Madar RJ, Malta Hansen C, Masterson S, Matsuyama T, McKinlay CJD, Meyran D, Monnelly V, Nadkarni V, Nakwa FL, Nation KJ, Nehme Z, Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, Ohshimo S, Olasveengen TM, Ong YG, Orkin AM, Parr MJ, Patocka C: 2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Resuscitation* 195: 109992, 2024
- 3) Seidler AL, Libesman S, Hunter KE, Barba A, Aberoumand M, Williams JG, Shrestha N, Aagerup J, Sotiropoulos JX, Montgomery AA, Gyte GML, Tarnow-Mordi OM, El-Naggar W, Carlo WA, Datta V, Lago V, Sundaram V, Manoj VC, Debray TPA, Sahoo T, Trongkamonthum T, Hooper SB, Dias S, Pratesi S, Badurdeen S, Hosono S, Belk SS, Shekhar S, Chamnanvanakij S, Arsan S, Knol R, Simes RJ, Riley RD, Pongmee P, Davis PG, Andersson O, Dipak NK, Nasef N, Allam NE, Mangla MK, Meyer MP, March M, Kluckow M, Goya M, Veciana MD, Manizheh MG, Robledo KP, Murphy KE, Wallace K, Fairchild KD, Josephsen JP, Merce JSr, Dorling JD, Kattwinkel J, Liu JQ, Nour I, Atia H, Liley HG, Rabe H, Al-Wassia HK, Carroli G, Polglase GP, Mohan GR, Dempsey EM, Okulu E, Blank DA, Chawla D, Ruangkit, Tanprasertkul C, Matallana CDP, Backes CH, Schwabberger B, Urlesberger B, Kc A, Pas ABT, Katheria AC, Thukral A, George AA, Webster AC, Kugelman A, Tan AC, Kumar A, Garg A, Duley L, Askie LM: Short, medium, and long deferral of umbilical cord clamping compared with umbilical cord milking and immediate clamping at preterm birth: a systematic review and network meta-analysis with individual participant data. *Lancet* 402 (10418):2223-2234, 2023
- 4) Seidler AL, Aberoumand M, Hunter KE, Barba A, Libesman S, Williams JG, Shrestha N, Aagerup J, Sotiropoulos JX, Montgomery AA, Gyte GML, Garg A, Kumar A, Tan AC, Kugelman A, Webster AC, George AA, Thukral A, Katheria AC, Pas ABT, Kc A, Urlesberger B, Schwabberger B, Backes CH, Matallana CDP, Tanprasertkul C, Ruangkit C, Chawla D, Blank DA, Okulu E, Dempsey E, Mohan GR, Polglase GR, Carroli G, Al-Wassia GHK, Rabe H, Liley HG, Atia H, Nour I, Liu JQ, Kattwinkel J, Dorling JS, Mercer JS, Josephsen JB, Fairchild KD, Wallace K, Murphy KE, Robledo KP, Gharehbaghi MM, Veciana MD, Goya M, Kluckow M, March MI, Meyer MP, Mangla MK, Allam NE, Nasef N, Dipak NK, Andersson O, Davis PG, Pongmee P, Riley RD, Simes RJ, Knol R, Arsan S, Shekhar S, Belk SS, Hosono S, Badurdeen S, Pratesi S, Dias S, Hooper SB, Sahoo T, Debray TPA, Manoj VC, Sundaram V, Lago V, Datta V, El-Naggar W, Carlo WA, Tarnow-Mordi WA, Duley L, Askie LN: Deferred cord clamping, cord milking, and immediate cord clamping at preterm birth: a systematic review and individual participant data meta-analysis. *Lancet* 402 (10418): 2209-2222, 2023

【学会発表】

- 1) 細野茂春：新生児医療における輸血医療の変遷。
令和5年度赤十字血液シンポジウム 関東甲信越
2024年1月27日 東京
- 2) 江藤宏美, 本多由依, 神徳備子, 細野茂春：「位置的頭蓋変形症から見てきた頭蓋健診の重要性」 周産期からの予防（助産師の立場から）。
第67回日本新生児成育医学会 2023年11月2日-4日 横浜
- 3) 森田直人, 関弘翔, 宮野咲紀, 青山隆彦, 辻泰弘, 佐藤洋明, 細野裕行：拡散モデルによる時系列医療データの欠損値補完。第44回日本臨床薬理学会学術総会 2023年12月14-16日 神戸
- 4) 森田直人, 関弘翔, 宮野咲紀, 辻泰弘, 佐藤洋明, 細野裕行：新生児モニター心電図の欠損値補完に関する検討。第34回日本大学薬学部学術講演会 2023年10月28日 千葉

- 5) 林夢夏, 関弘翔, 宮野咲紀, 佐藤洋明, 細野裕行: 新生児心電図のクラスタリング及びその解釈. 令和5年(第67回)日本大学理工学部学術講演会 2023年11月30日 東京

【著者 総説】

- 1) 細野茂春: 子どもの検査値の判断に迷ったら 6章 血液生化学検査 血液ガス. 小児科 64(13) 金原出版, 2023, 1497-1501
- 2) 細野茂春: 小児科医が行う"乳児の頭のかたち外来"の意義と頭蓋変形の予防と治療. 日本母乳哺育学会雑誌 17(2) 2023, 149-157
- 3) 細野茂春: 飛躍のチャンスは論文から. 日本新生児成育医学会雑誌 35(3) 2023, 405-405
- 4) 丸山麻美: 周産期診療のための病態生理「新生児において急速な輸液が危険であるといわれているがその理由は何か」. 周産期医学 53巻増刊号 東京医学社, 2023, 378-380

【その他】

- 1) 中張 惇子: 初装着時の説明. 第3回位置的頭蓋変形に対するヘルメット適正治療研修会 2023年12月17日 東京
- 2) 丸山麻美: RSV流行開始に間に合わせたい-パリビズマブ投与の準備期間短縮のために当院がはじめたこと-. アストラゼネカTVシンポジウム 2024年3月26日 埼玉

■ 周産期科 小児外科部門

【学会発表】

- 1) 加藤清香, 長崎瑛里, 橋本 真, 池田太郎, 細野茂春: 左頸部に発生した硝子血管型 Castleman 病の1例. 第193回 日本小児科学会埼玉地方会 2023年12月3日 埼玉
- 2) 池田太郎, 長崎瑛里, 橋本 真: ヌック水腫を疑ったちょっと特殊な鼠径ヘルニアの1例. 第8回桜門研究会 2023年12月16日 東京

【著者 総説】

- 1) 池田太郎, 橋本 真, 長崎瑛里, 細野茂春: 食道裂孔ヘルニア. 周産期医学 53巻11号 東京医学社, 2023, 1600-1604

【その他】

- 1) 長崎瑛里: 実績報告. みぬま周産期セミナー 2022年10月21日 さいたま

編集後記

今回の発行にあたりお忙しい中、吉田先生には巻頭言をご執筆頂きありがとうございました。

梅雨だというのにうだるような暑さが続いております。皆様、体調崩されていませんか？

先日長野に行く用事があり、ついでに野尻湖畔にあるナウマンゾウ博物館に行ってきました。小さい頃に読んだ本に出てきたナウマンゾウ。実物大の模型は迫力があり、今でも野尻湖で発掘が続けられているのは驚きました。旧石器時代に山に囲まれていた高原を歩いていたんだなぁと感じながら博物館見学をしました。

そしていよいよパリ五輪が始まります。暑さに負けず応援したいと思います。



自治医科大学附属さいたま医療センター 研究だより 第63号

発行日 令和6年7月26日
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター
発行責任者 センター長 遠藤 俊輔
編集 事務局 総務課
研究室
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL. 048-647-2111
FAX. 048-648-5166
題字 遠藤 俊輔 センター長

印刷 第一印刷(株)